

わかりやすい 藤沢市の財政 2013

平成25年度予算と平成23年度決算から
藤沢市の財政状況を見てみよう



藤沢市の財政状況を
わかりやすく
解説しました。

藤 沢 市



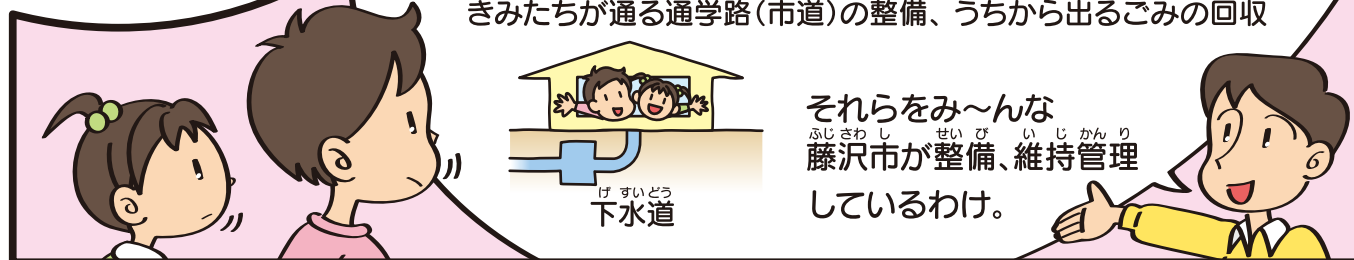
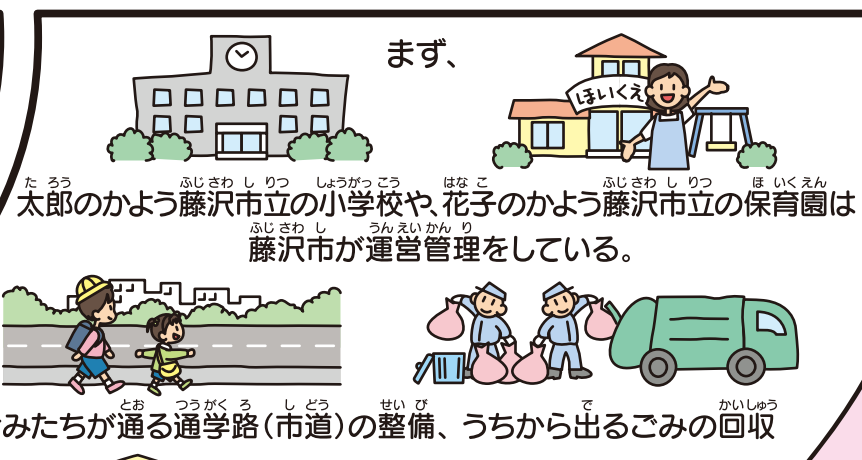
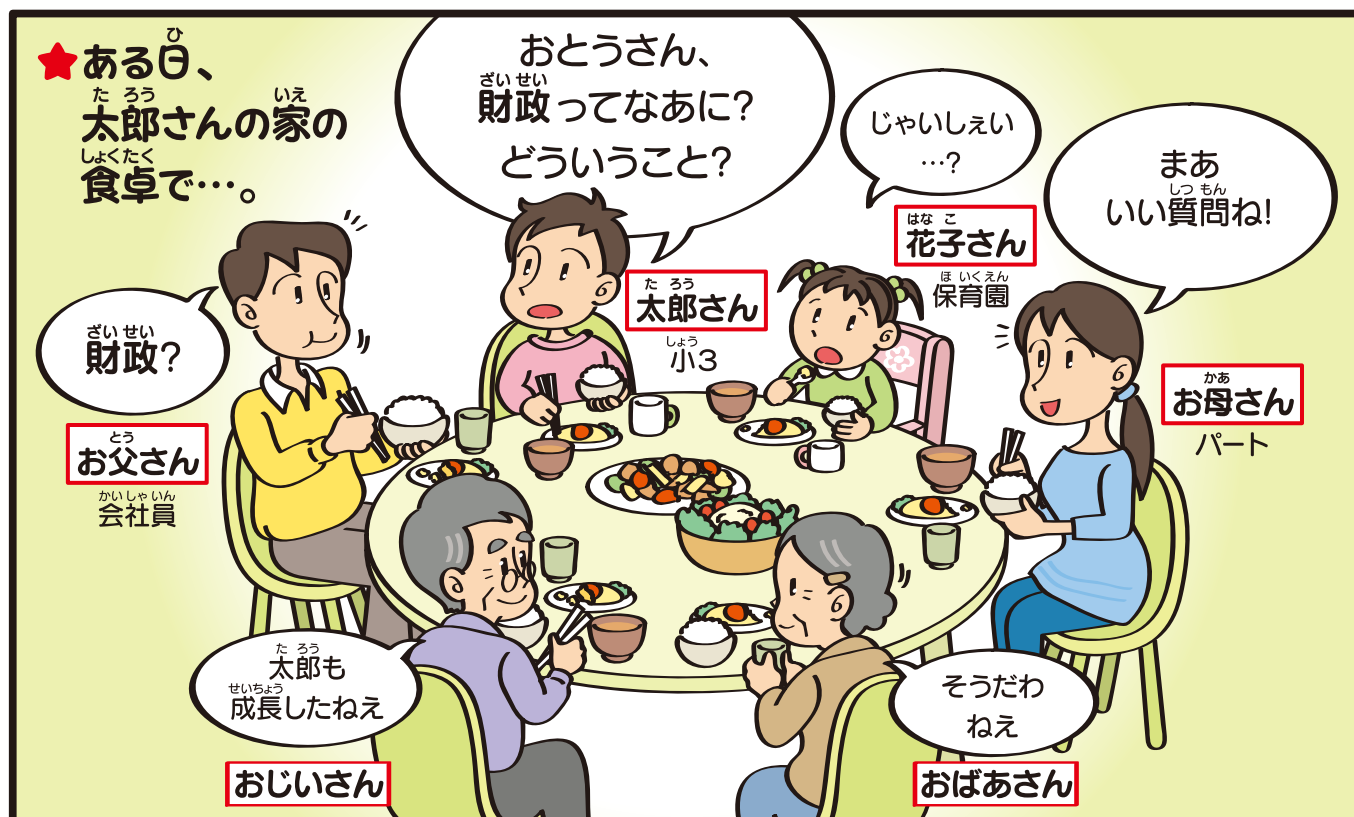
- もくじ ● 1 みんながわかる財政のはなし(入門編) …… 1
- もっと知りたいあなたに
- 2 平成25年度予算を見てみよう …… 7
 - 3 藤沢市の台所事情は? …… 12
 - 4 藤沢市はどうして
地方交付税の交付団体なの? …… 17
 - 5 藤沢市の借金はどうなっているの? …… 19
 - 6 藤沢市の貯金はどれくらい? …… 23
 - 7 これから先も
藤沢市の財政は本当に大丈夫なの? …… 24
 - 8 財務諸表でわかる藤沢市の財政状況 …… 25
 - 藤沢市の借金時計 …… 裏表紙

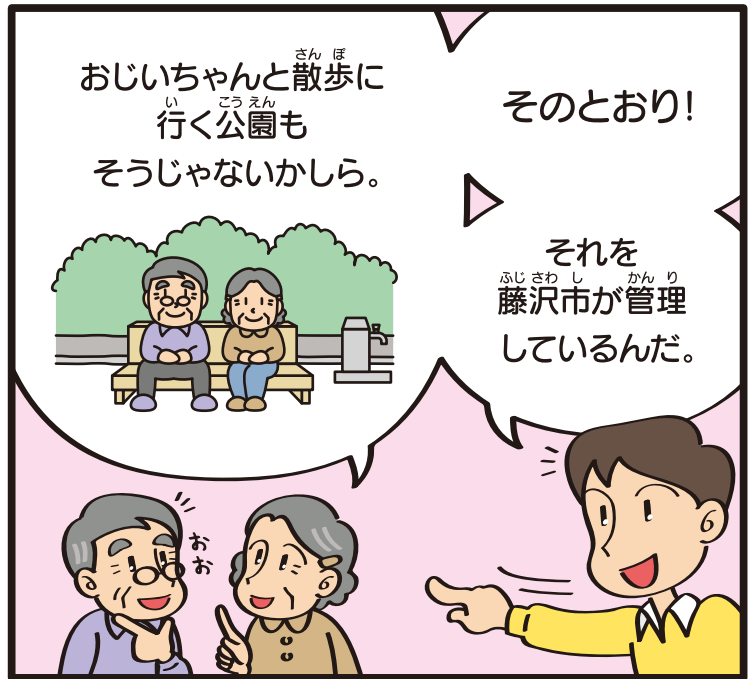
1

みんながわかる財政のはなし ざいせい 入門編 にゅうもんへん

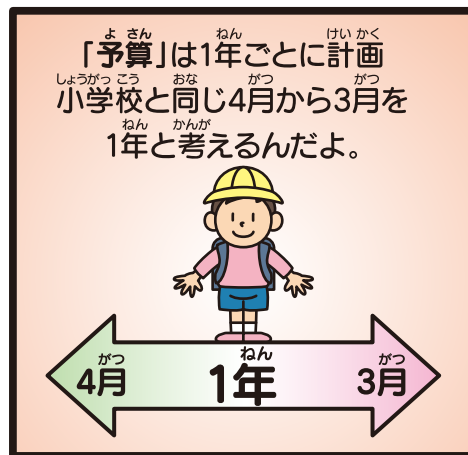
みなさんは「財政」ということばを聞いたことがありますか？ 藤沢市の「財政」はみなさんの生活と密接に関係しているといえます。ここでは、主人公 藤沢太郎さん(小学3年生)と太郎さんの家族の生活をとおして、藤沢市の「財政」がどのようなものかをみてみます。

1 「財政」ってどういうこと？





2 「予算」ってどうやってきめるの？

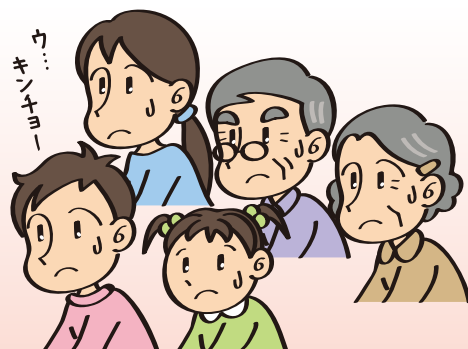


ここで問題です!

Q1. 神奈川県には、横浜市や川崎市などの大都市も 含めて19の市がありますが、 藤沢市の「一般会計」の「予算」の額の多さは 19市のうち何番目でしょうか？

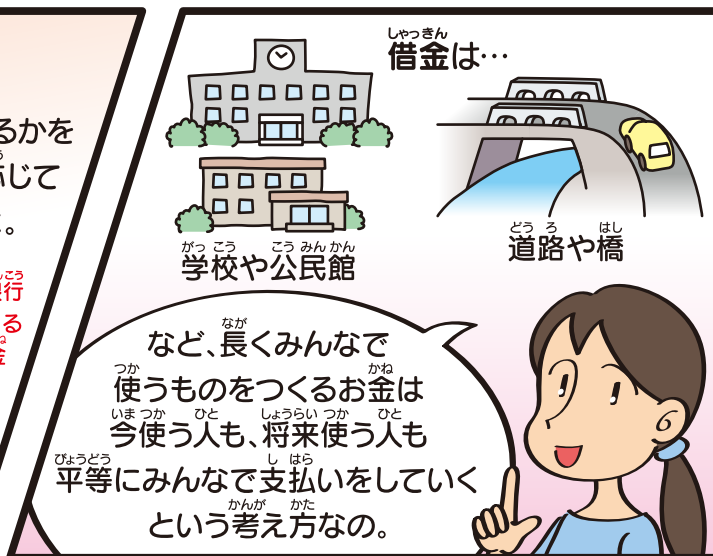
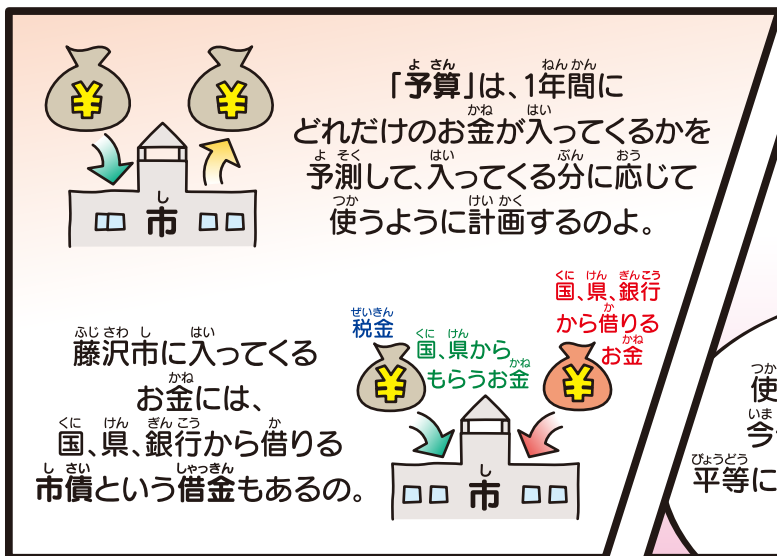
- ①1番目 ②5番目 ③10番目

クイズのこたえは、このページの下にあります。



©2017 藤沢市、川崎市、相模原市、横浜原市、横浜原市に次ぐ20番目です。

3 つか かね 使うお金はどうやって集めるの？





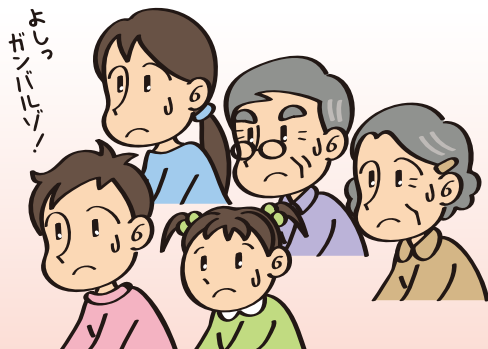
それではふたたび問題です!



Q2. 藤沢市の「借金」は
市民1人あたりいくらでしょうか?

- ① およそ3万6千4百円
- ② およそ36万4千円
- ③ およそ364万円

クイズのこたえは、このページの下にあります。



コラム

借金してもだいじょうぶ?

藤沢市はどのような理由で借金をするのでしょうか。
太郎さんの通学する小学校の建て替え工事に例えてみましょう。



もしも...



小学校の建て替えに
20億円以上の支払いが必要です



一度に払ってしまうと、小学校、保育園の運営管理、
通学路の整備、ごみの回収、下水道の維持管理にお金がたりない

そこで...

学校の校舎などずっと使用していくものは、今使う人も将来使う人も平等に
みんなで支払いをしていくことにしています。



藤沢市が集めたお金のほかに借金をします



長い間に分けて借金を返していきます





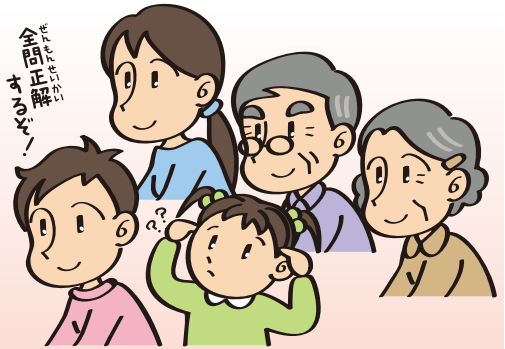
それでは最後の問題です!



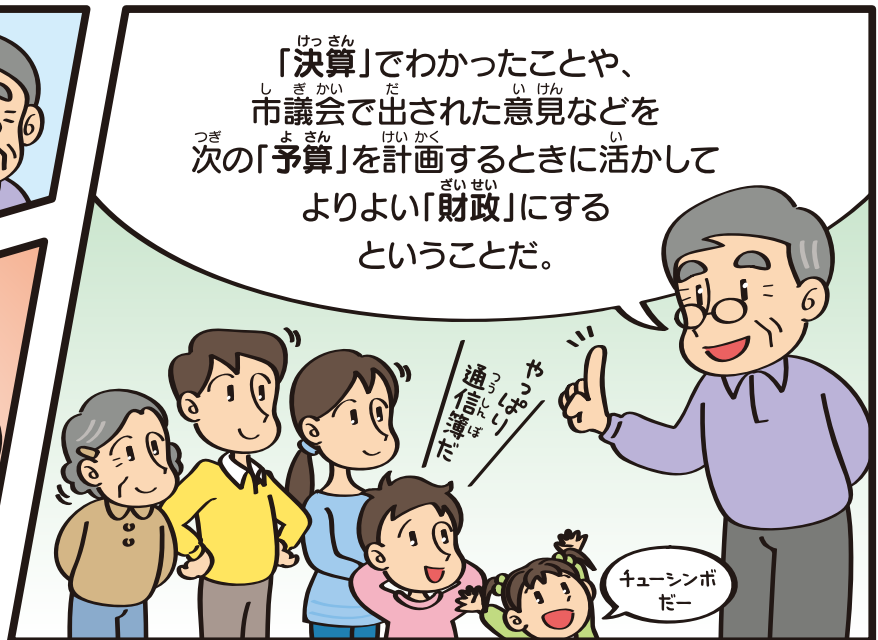
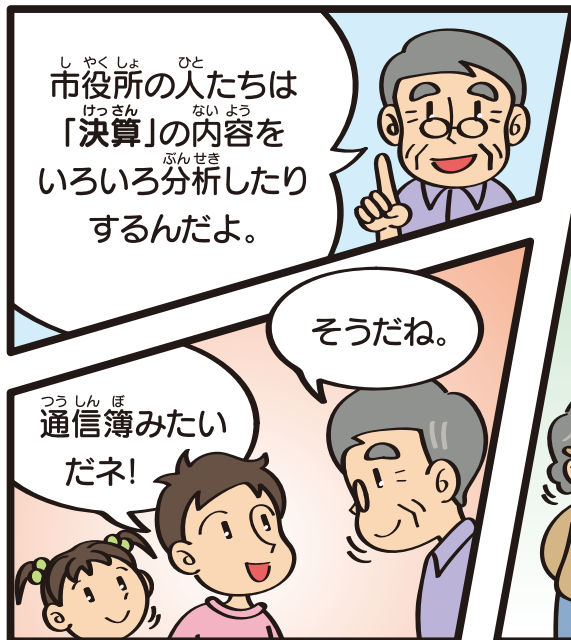
Q3. 藤沢市の「貯金」(「基金」)は
市民1人あたりいくらでしょうか?

- ① およそ3千4百円
- ② およそ3万4千5百円
- ③ およそ34万5千円

クイズのこたえは、このページの下にあります。



4 使ったお金はどうやって確認するの?



入門編はここまで。次のページからは「財政」の詳しいことが書いてあります。

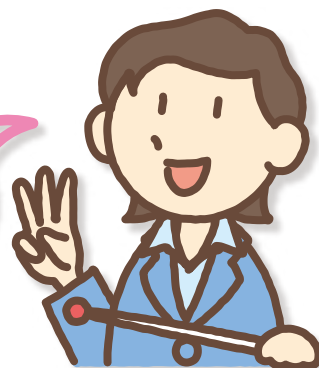
© 2020 財政のしくみ

2

もっと知りたいあなたに 平成25年度予算を見てみよう

1 市のお財布はどうなっているの？

藤沢市の予算は、一般会計、特別会計、公営企業会計の3種類の会計があります。お財布で言えば3種類のお財布があって、お金の出し入れをします。



1,209億
900万円

一番大きいお財布が「一般会計」です。

福祉・子育て・道路整備などのまちづくりに必要なお金を経理する会計です。家計に例えると生活費に使うお金を出し入れするお財布です。

平成25年度の当初予算の額は、1,209億900万円になっています。

一般会計

次のお財布は「特別会計」です。

お金の出入りをはっきりさせるために、一般会計とは別にしています。

藤沢市には、「国民健康保険事業費」や「区画整理事業費」など8の特別会計があります。

737億
9,540万円

特別会計

- 北部第二(三地区)土地区画整理事業費 ……12億1,555万円
- 競輪事業費 ……29億1,716万円
- 墓園事業費 ……8億9,257万円
- 国民健康保険事業費 ……406億5,693万円
- 柄沢特定土地区画整理事業費…11億8,805万円
- 湘南台駐車場事業費 ……1億4,790万円
- 介護保険事業費 ……222億8,595万円
- 後期高齢者医療事業費 ……44億9,129万円

385億
1,217万円

最後のお財布が「公営企業会計」です。

普通の会社と同じように、利用した人から料金をもらって事業を行っているお財布です。

藤沢市には下水道と病院の二つの公営企業会計があります。

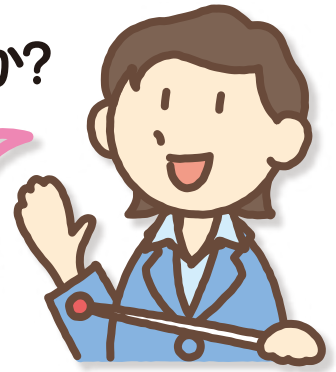
- 下水道事業費 ……184億3,763万円
- 市民病院事業 ……200億7,454万円

公営企業会計



全会計 **2,332億1,657万円**

2 市の歳入(1年間の収入)はどんな状況ですか?



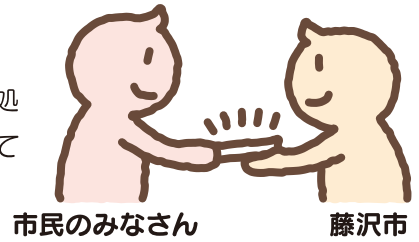
では、みなさんに一番身近で、一番お金の出入りが大きい一般会計のお財布を例に、平成25年度の歳入がどのようになっているのか見てみましょう。



藤沢市の歳入には、自主財源と依存財源があります。

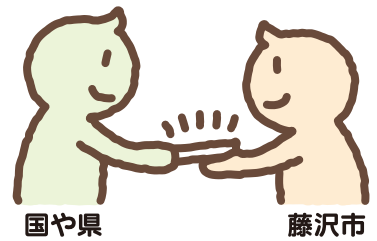
自主財源
876億9,072万円

みなさんに納めていただく市税やごみ処理手数料など、藤沢市が自主的に財源として集めることができる収入です。

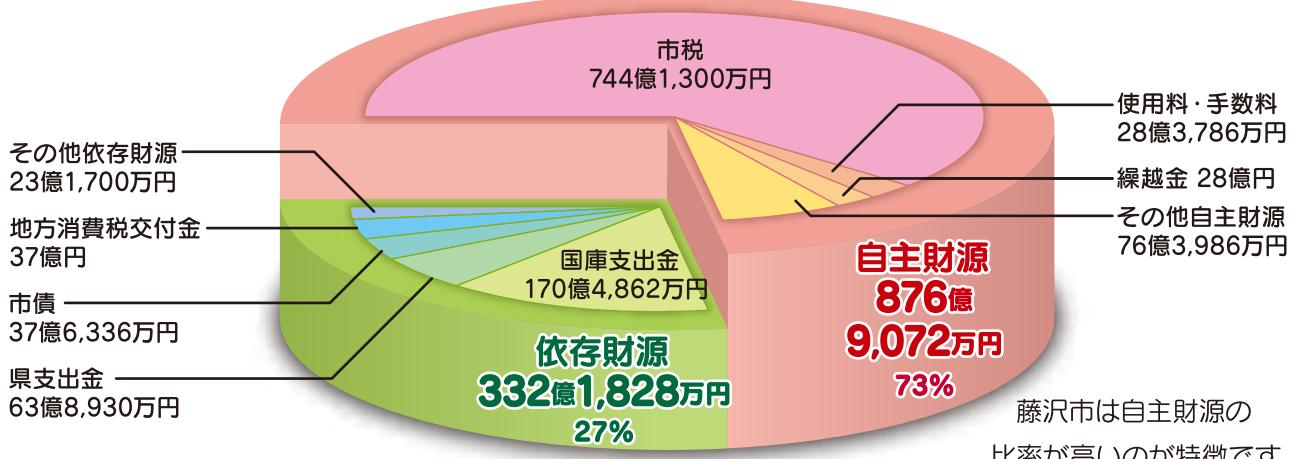


依存財源
332億1,828万円

道路や施設をつくる時に国からもらう補助金や、借り入れる市債など、国が定めた額を交付されたり、割り当てられたりする収入です。

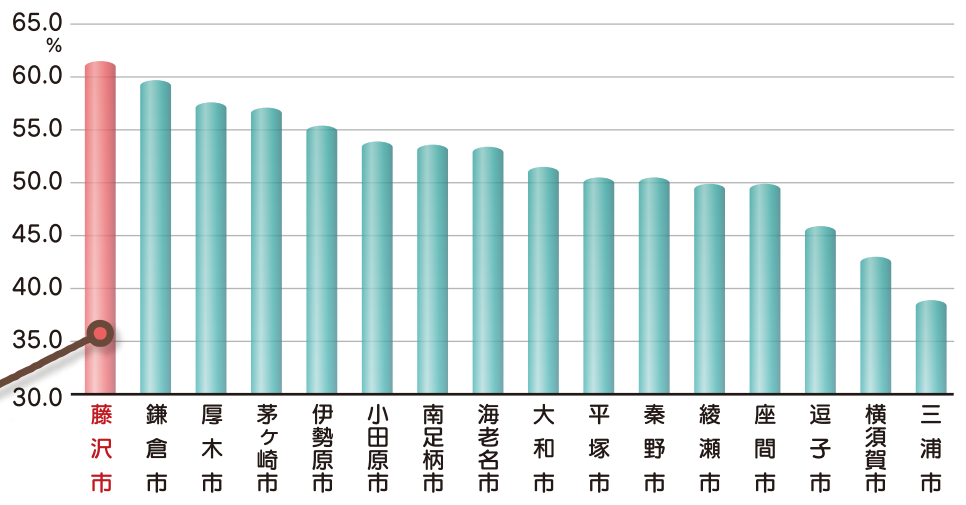


●平成25年度歳入予算の内訳



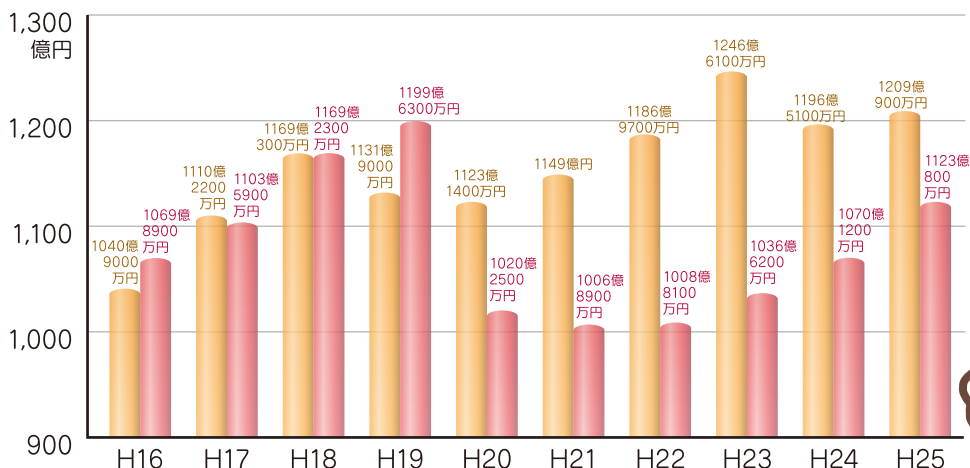
●歳入予算に占める市税の割合

藤沢市は
県内16市中
第1位です



● 予算規模の推移

■ 一般会計 ■ 特別会計・公営企業会計

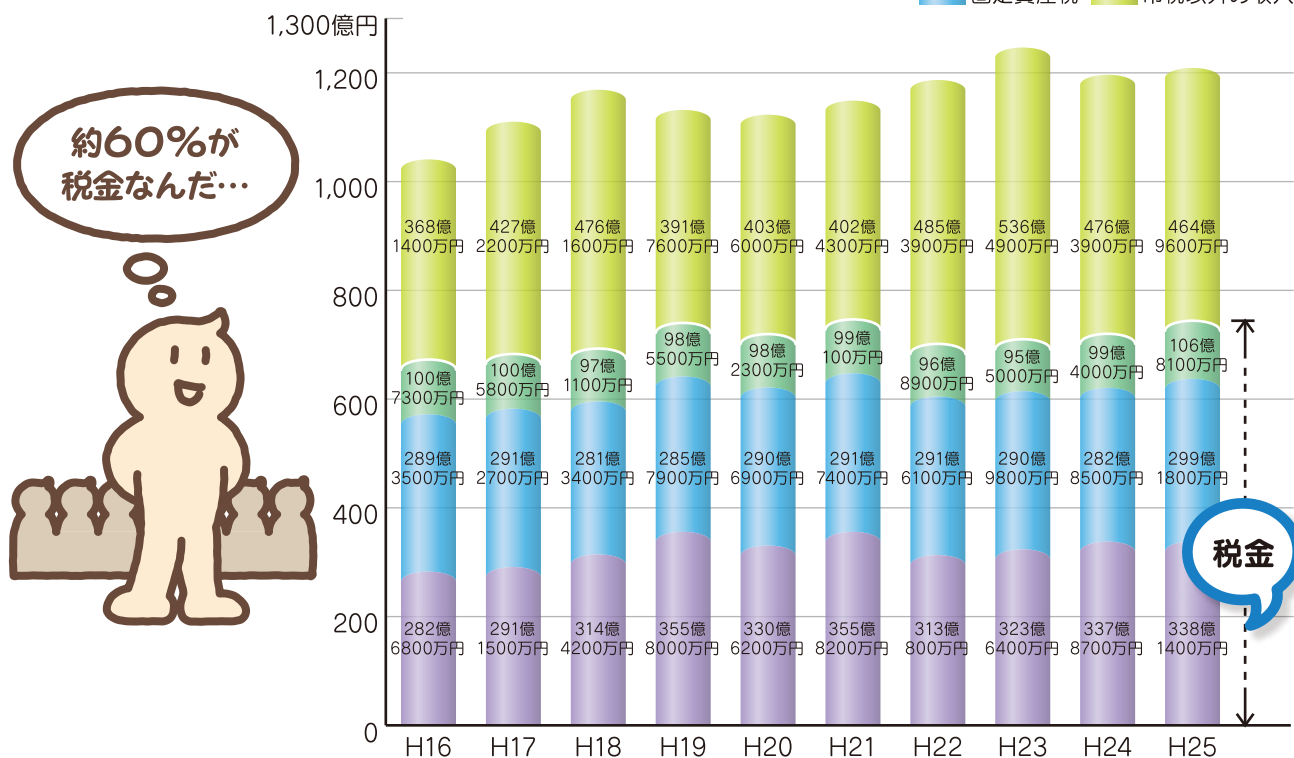


一般会計の当初予算は、前年度の当初予算が政策的経費(新規の建設事業費など)を計上しない骨格予算で編成したため、予算規模は前年度の当初予算に比べ増となっています。

特別会計・公営企業会計の当初予算は、国民健康保険事業における医療給付費や介護保険事業における介護給付費の伸び、また下水道の管きょ建設等の工事費の増などにより前年度の当初予算に比べ増となっております。

● 一般会計歳入予算に占める市税の推移

■ 市民税 ■ その他の市税
■ 固定資産税 ■ 市税以外の収入



市民税や固定資産税など市税収入の歳入予算全体に占める割合は、新增築家屋の増により固定資産税が増となっていることや、平成24年度当初予算は**骨格予算**として編成したため、6月補正予算の財源として市税収入のうち9億円の計上を先送りしたこと等により、前年比+3.3%の61.5%となっています。

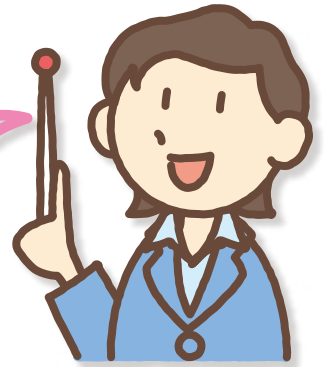
藤沢市では平成24年2月に市長選挙があったことから、選挙前には政策的な判断ができていく等の理由で、平成24年度当初予算では政策的経費(新規の建設事業費など)を予算計上せず、選挙後の補正予算で編成しました。骨格予算とは、人件費や扶助費などの義務的経費や、行政サービスを維持していく上で必要な経費などを計上した予算のことを言います。

3 市の歳出(1年間の支出)はどんな状況ですか?

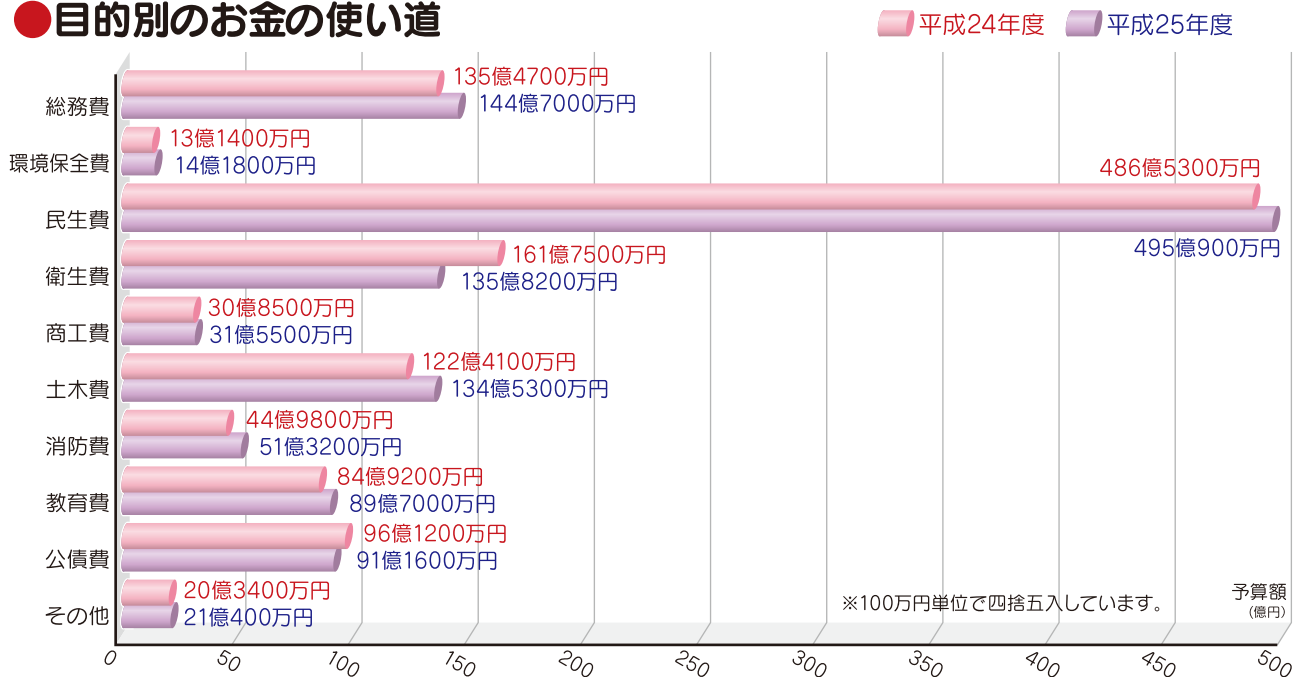
入ってきたお金は、どのように使われているのでしょうか。今度は歳出について見てみましょう。

市では、道路や学校を作ったり、火災や急病に備えて消防車や救急車を用意したり、そのほか子育てや福祉などさまざまな事業にお金を使っています。

では、何にお金を使っているのでしょうか？簡単に説明すると次のようになります。



● 目的別のお金の使い道



総務費
市民センターや市民会館の運営、広報ふじさわの発行、税金の徴収や住民票の発行などに使われます。

環境保全費
交通安全や防犯対策、また公害防止や緑地の保全などに使われます。

民生費
保育園の運営費、小児医療、高齢者や障がい者などの福祉に使われます。

衛生費
ごみを集めたり処理したりする経費や保健所の運営などに使われます。

商工費
商店街や中小企業を応援したり、観光施設の管理などに使われます。

土木費
道路や橋を整備したり、公園をつくったり、市営住宅の管理などに使われます。

消防費
消防車や救急車を管理したり、消防署の整備などに使われます。

教育費
小・中学校の校舎や体育館、また公民館、図書館、スポーツ施設等の整備や運営に使われます。

公債費
大きな施設や道路をつくるときに、国や銀行などから借り入れたお金の返済に使われます。

その他
農業や水産業、働いている人や仕事を探している人を応援する事業などに使われます。

4 家計簿に例えて見ると

家庭と市役所では、お金の使い道が違うので単純に比べられません
が、例えば藤沢市の予算を年収500万円(月収41万円)の家計に置き換え
てみると…



藤沢市の予算

こうなります。

収 入		支 出	
市 税	744億1,300万円	人件費	259億4,062万円
使用料、手数料など	132億7,772万円	扶助費	322億3,040万円
【自主財源合計】	876億9,072万円	物件費	207億9,699万円
国・県支出金など	294億5,492万円	投資的経費・維持補修費	81億2,846万円
市債の発行	37億6,336万円	公債費	91億 971万円
		繰出金・補助費など	209億1,396万円
		積立金・貸付金	37億8,886万円
収入の合計	1,209億 900万円	支出の合計	1,209億 900万円

1カ月の家計簿に例えると…

こんな感じになります。

収 入		支 出	
お父さんの給料	25万2,000円	食 費	8万8,000円
お母さんのパート代	4万5,000円	医療費・保育料	10万9,000円
【給料等の合計】	29万7,000円	光熱水費や被服代	7万円
その他臨時収入	10万円	家の増築・修理、家財購入	2万8,000円
銀行からの借入	1万3,000円	住宅ローン返済	3万1,000円
		子どもへの仕送り	7万1,000円
		貯 金	1万3,000円
収入の合計	41万円	支出の合計	41万円

このほかにローンの残高や預貯金の残高は、どうなっているのでしょうか？

ローンの残高(市債残高) 765億6,631万円 家計簿に例えると 316万6,300円
預貯金の残高(基金残高) 109億7,854万円 家計簿に例えると 45万4,000円

※平成23年度一般会計の決算額をもとにしています。

収入ではお父さんやお母さんの給料で72.4%を占めています。年間の借金も
多くはありませんね。

支出では、医療費やローンの返済、子どもへの仕送りなど、なかなか節約が難
しい経費が大きいですね。




3

藤沢市の台所事情は？

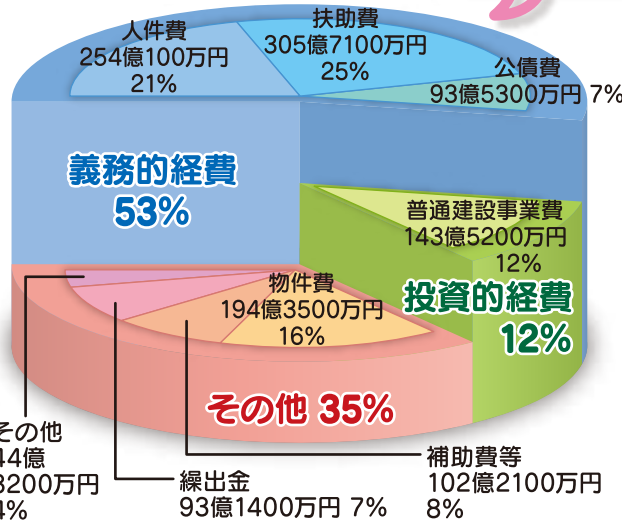

1 今度は平成23年度普通会計決算から藤沢市の台所事情を見てみましょう。

● 性質別のお金の使い道


総額1,230億7,900万円




扶助費
生活困窮者、子ども、高齢者、障がい者などを援助するために使われます。

公債費
国や銀行などから借り入れたお金の返済に使われます。



繰出金
国民健康保険事業や土地区画整理事業などに対して事務費や建設費を援助するために使われます。



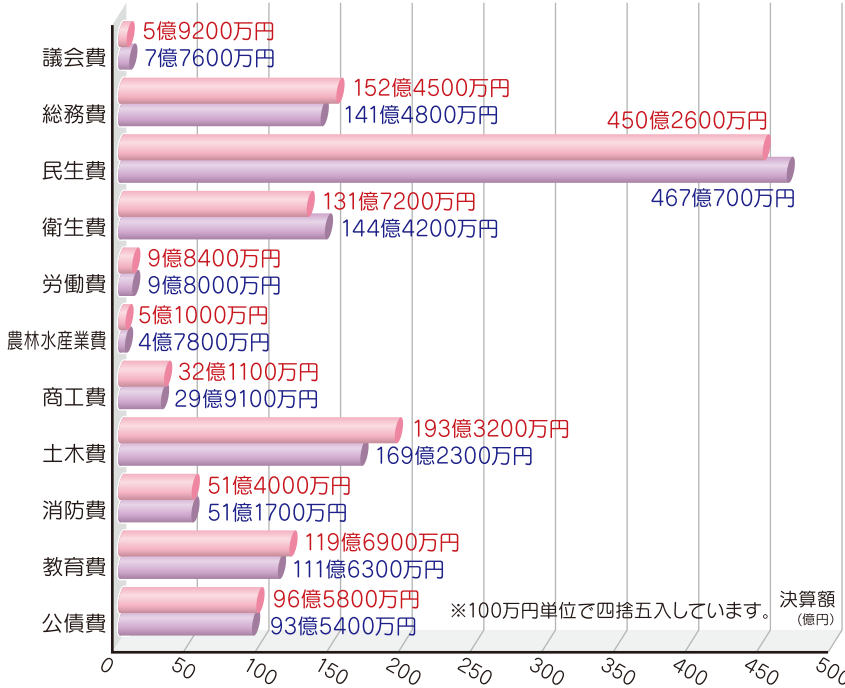
補助費等
下水道事業や病院事業に対する負担金、幼稚園や保育所への補助金などに使われます。



普通建設事業費
道路、橋りょう、公園、学校などの社会資本の整備に使われます。

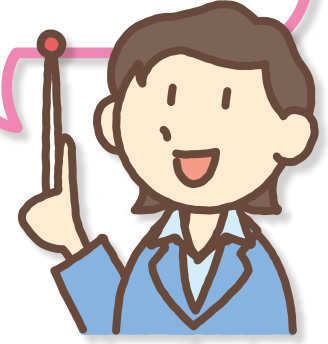
● 目的別のお金の使い道

平成22年度 平成23年度



★ 普通会計とは？

他市町村との比較に使います。市町村ごとに会計の範囲が異なり、財政状況の比較が困難なため、統計上用いる会計区分です。藤沢市の普通会計は、一般会計と3つの特別会計(墓園事業費、北部第二(三地区)土地区画整理事業費、柄沢特定土地区画整理事業費)を合わせたものです。



2 義務的経費が年々増えてきています。

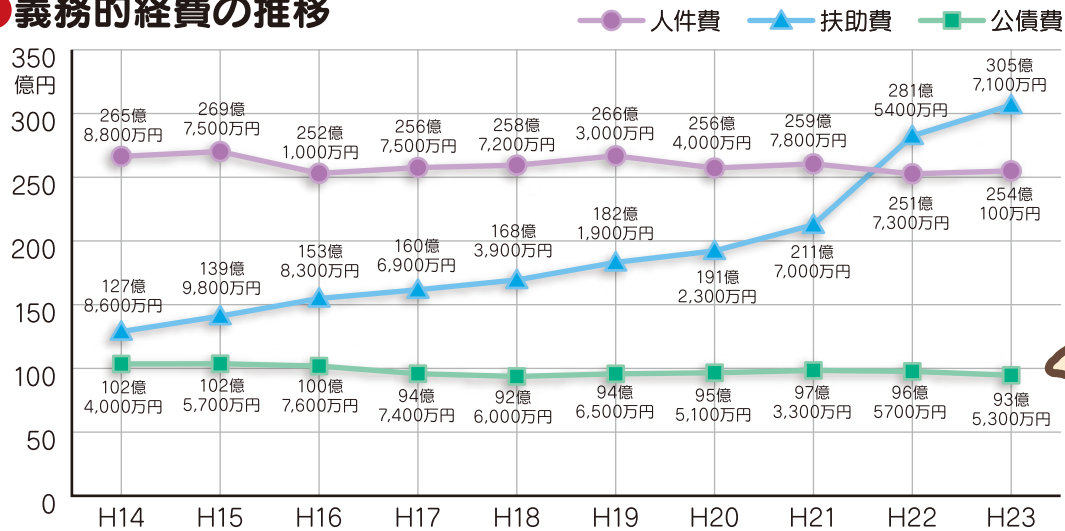
人件費、扶助費、公債費は毎年の支出が義務づけられ節減することが難しいため「義務的経費」と分類されます。

義務的経費の割合が高くなると自由に使えるお金が少なくなり、新しい市民サービスや公共施設の建設などが難しくなります。

それでは、義務的経費の10年間の推移を見てみましょう。



● 義務的経費の推移



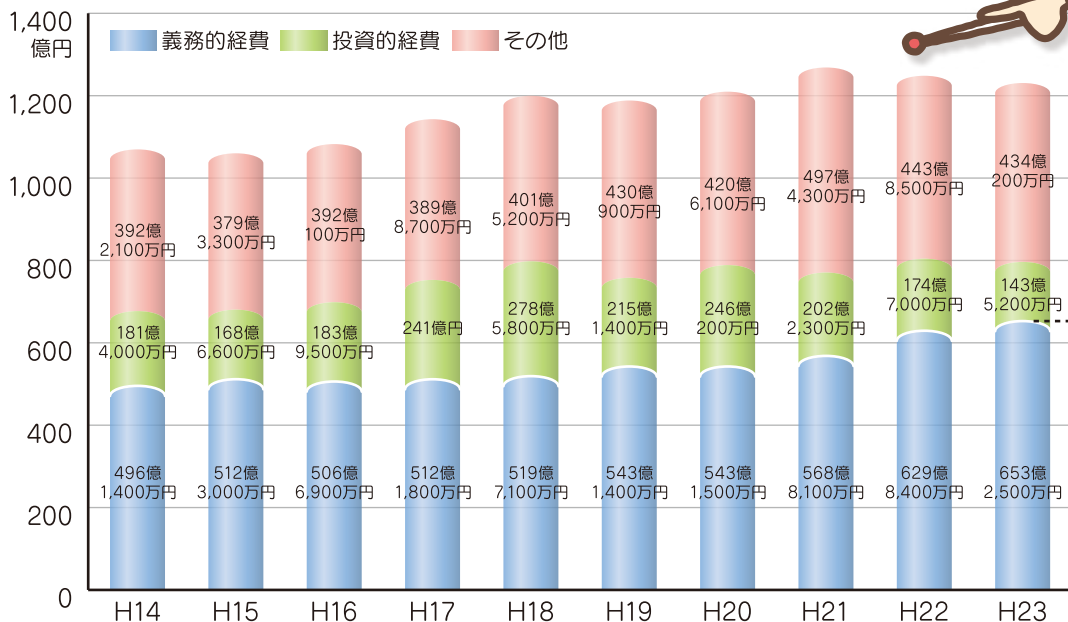
● 人件費は増減はありますが定員削減などにより減少してきています。

● 扶助費は10年間で約178億円(139%)増加しました。平成23年度は生活保護費が増加したものの、子ども手当の支給額の減少などにより、前年度に比べて増加率が減少し、約24億円(109%)の増加となっています。

● 公債費は、市債の償還が進み減少傾向にあります。

歳出全体に占める義務的経費の割合はどうなっているのでしょうか。

● 歳出全体に占める義務的経費の割合



● 義務的経費は10年間で157億円(31.7%)増加しました。歳出全体に占める割合は、平成22年度に50%を超え、平成23年度は53.1%とさらに増加しています。

3 「経常収支比率」は台所事情をあらわします。

★経常収支比率とは？

自由に使えるお金がどのくらいあるかがわかります。
社会経済や市民ニーズの変化に的確に 대응していくための財源がどの程度確保されているかを示します。

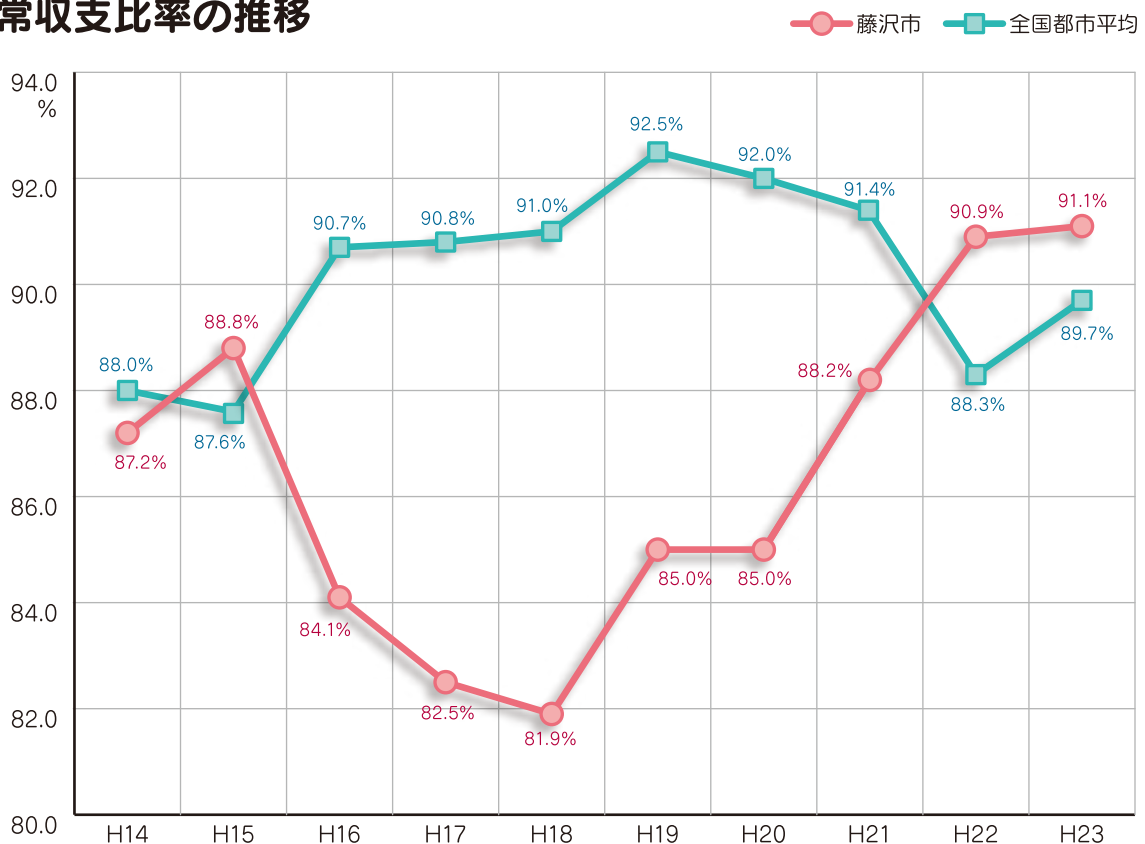
算出方法は、
$$\frac{\text{毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源}}{\text{毎年度経常的に収入される一般財源}}$$

です。

給料に占める食費やローンの返済額の割合と同じで、比率が低ければ自由に使えるお金が多くなります。



●経常収支比率の推移

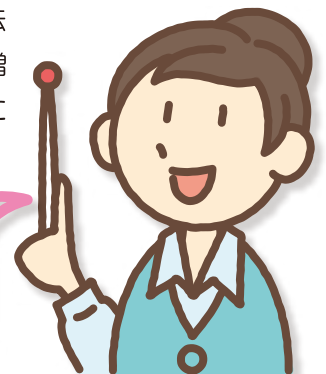


比率が80%を超えると財政構造の弾力性が低下すると言われていますが、大多数の市が80%を超えており、平成23年度決算の全国都市平均は89.7%、県内16市平均では95.2%となっています。

藤沢市は平成15年度に88.8%まで上昇しましたが、その後、平成18年度までは臨時財政対策債の発行や市税等の増収により81.9%まで低下しました。平成23年度は、法人市民税や固定資産税の増により、「毎年度経常的に収入される一般財源」(分母)が増となりましたが、扶助費や人件費などの増により、「毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源」(分子)も増となったため、91.1%となり前年度を上回りました。

★一般財源とは？

使い道が特定されない何にでも使える収入のことです。主なものに市税、国からの譲与税、赤字債である臨時財政対策債などがあります。



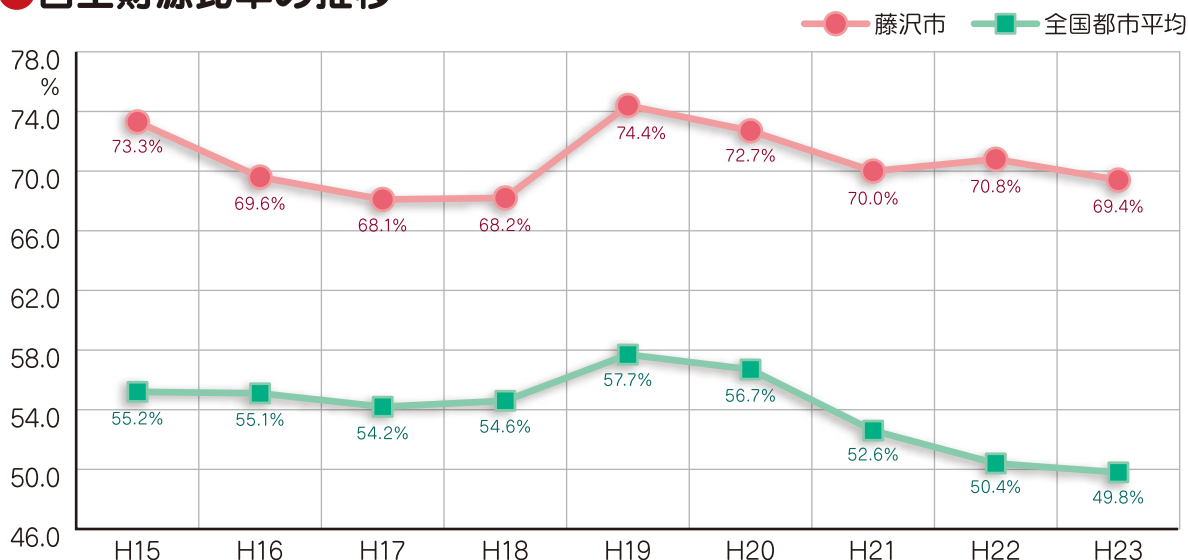
4 「自主財源比率」は財政の安定度をあらわします。

★自主財源比率とは？

財政の安定度や健全度を示す指標です。

市税や使用料・手数料などの自主財源が歳入全体に対してどの位の割合になるかをあらわし、比率が高いほど財政基盤の安定性があります。

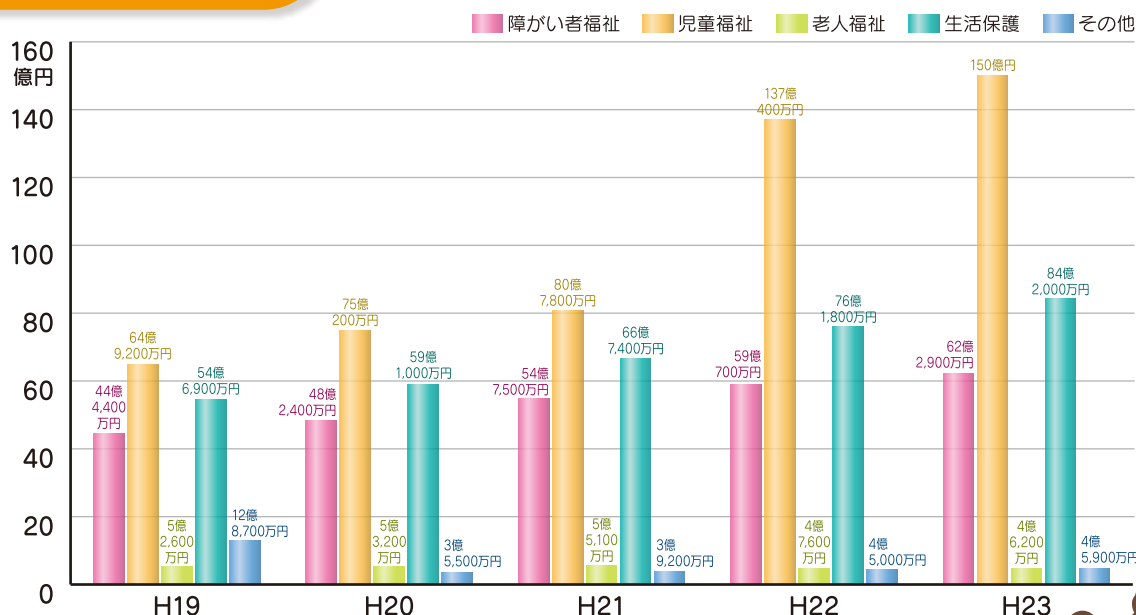
●自主財源比率の推移



全国都市平均は平成19年度以降低下傾向にあり、平成23年度では50%を下回る49.8%まで低下しました。藤沢市は平成23年度は69.4%と5年ぶりに70%を下回りましたが、市民や企業の担税力に支えられ、全国都市平均を上回る高い率となっています。

ここでひと休み

扶助費は何が増えているのでしょうか？



子ども、生活困窮者、障がい者に対する扶助費が増えています。5年間でいずれも40%を超える伸び率です。特に児童福祉費は、子ども手当や児童保育委託費の増などにより131%増となっています。

老人福祉費の割合が少ないのは、これとは別に、介護保険事業費や後期高齢者医療事業費の特別会計で約237億円を支出しているからなんだ!



5 財政指標ランキングコーナー!!

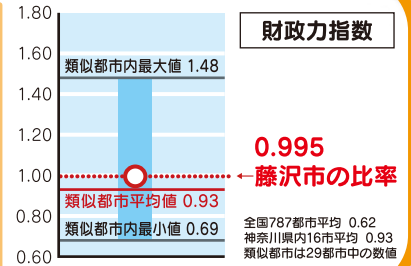
藤沢市の財政指標のランキングがわかるコーナーです。

財政状況を見る財政指標にはいろいろありますが、ここでは主な財政指標を取り上げました。

財政力指数



財政力指数は、標準的な行政活動を行うために必要な財源を、どの程度自力で調達できるかを見る指数です。指数が大きいほど財政力が強く、1.00未満になると国から普通交付税が交付されます。平成23年度は0.995となったため交付団体となりました。

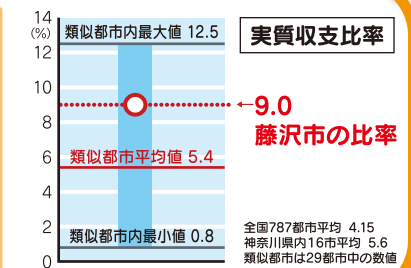


実質収支比率



歳入歳出の形式的収支から翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支額(黒字または赤字額)が、標準財政規模に対してどの位の割合になるかを表すものです。

よりわかりやすく言うと黒字率や赤字率を見る指標です。

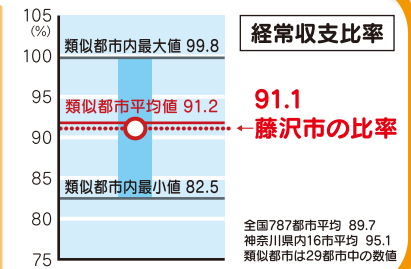


経常収支比率



扶助費や人件費など経常にかかる経費に対して、市税や各種交付金など経常的に入ってくる一般財源をどの位の割合で使っているかを表すもので、財政の弾力性や硬直性を見る指標です。

この比率が高いほど財源の余裕が少なくなり、政策的に使えるお金が少なくなります。

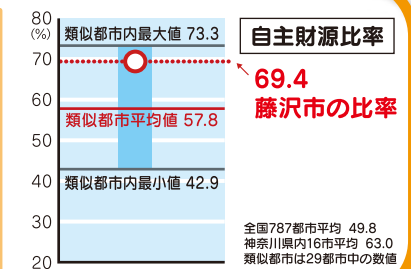


自主財源比率



市税や使用料・手数料などの自主財源が歳入全体に対してどの位の割合になるかを表し、財政の安定度や健全度を示す指標です。

この比率が高いほど財政基盤の安定性があります。

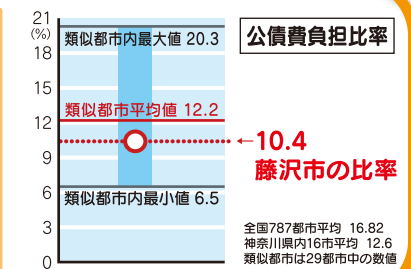


公債費負担比率



地方債の元利償還金等の公債費に充当された一般財源が一般財源総額に対して、どの位の割合になるかを表すものです。

公債費が一般財源の用途の自由度をどの程度制約しているかをみることで、財政構造の弾力性を判断することができます。



※注1: いずれの財政指標も平成23年度決算に基づく財政指標です。

※注2: 県内16市は、政令市(横浜市、川崎市、相模原市)を除いた市です。

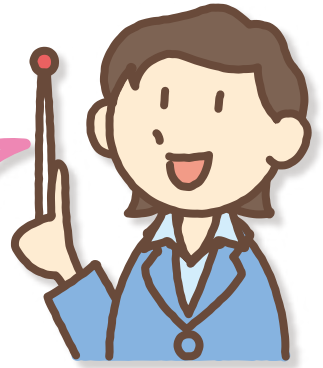
4

藤沢市はどうして 地方交付税の交付団体なの？

1 地方交付税ってなに？

地方交付税制度は、全国どこの地方公共団体でも標準的な行政サービスを受けられるよう、地方公共団体の財源を安定させる仕組みです。

地方自治の観点から、本来、地方公共団体の歳出は、その団体の税収で賄うべきですが、税源となる個人や企業などの所得や財産は、地域によってバラツキがあり、多くの地方公共団体が税収だけでは必要な財源を確保できません。そこで国税の一定割合をそれぞれの地方公共団体の標準的な支出に見合うよう再配分したものが地方交付税です。



2 地方交付税ってどうやって計算するの？ 難しい計算をするの？

地方交付税は、法律に基づき国税5税(所得税、酒税、法人税、消費税、たばこ税)の一定割合を集めたもので、その総額が94：6の割合で**普通交付税**と**特別交付税**(※)とに分けて地方公共団体に交付されます。

※災害など普通交付税の中では補足されない特別の需要について算定されます。

ここでは、普通交付税についてお話ししましょう。

●普通交付税とは

「基準財政需要額」が「基準財政収入額」を上回る地方公共団体に交付されます。

★「基準財政需要額」とは？

人口や面積など、共通の尺度を基に算出した各団体の標準的な財政需要のことです。算定項目は、大きく「消防費」「土木費」「教育費」などに分けられます。

計算方法は、**基準財政需要額** = **測定単位** × **補正係数** × **単位費用**
(人口・面積等) (国が設定した係数) (測定単位あたりの費用)

算定項目ごとに計算を行い、これらを積み上げたものが「基準財政需要額」となります。

平成24年度の藤沢市の「消防費」の基準財政需要額を計算してみましょう

測定単位 409,657人	×	補正係数 1.030	=	補正後の数値 421,947人
補正後の数値 421,947人	×	単位費用 11,300円	=	基準財政需要額 4,768,001千円

「測定単位」は人口・面積等、「単位費用」は国が統計的に算出した測定単位あたりの費用、「補正係数」は国が地域に合わせて設定した係数です。

細かく計算するんだね



★「基準財政収入額」とは？

標準的な税収見込額の一定割合のことです。

計算方法は、**基準財政収入額** = **標準税収入** × 75% + **地方譲与税等**
(市町村民税や固定資産税など標準的な税収額) (自動車重量譲与税等)

そういう仕組みだったのか

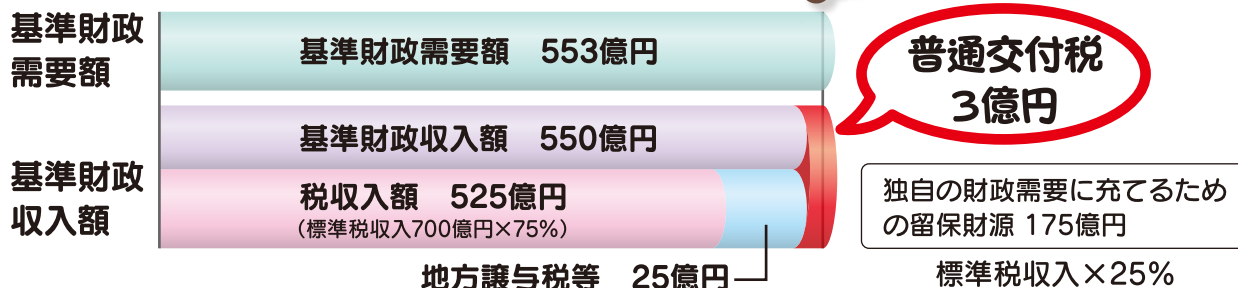


地方交付税の計算方法は、地方公共団体へ交付税を配分するための計算制度であるため、「基準財政需要額」=実際の「歳出」ではなく、「基準財政収入額」=実際の「歳入」でもありません。このため、独自に実施している事業等の支出額がそのまま「基準財政需要額」に反映されたものではありません。



● 普通交付税のイメージ

※数字は解説用に作成したもので、藤沢市の実際の数字とは異なります。



3 藤沢市は、なぜ交付団体なの？

平成23年度に藤沢市は、51年ぶりに地方交付税の交付団体になりました。

その理由としては、「基準財政収入額」が前年比2.6%の増加に対し、「基準財政需要額」は5.2%の増加となったため、「基準財政需要額」が「基準財政収入額」を上回ったことによるものです。

平成24年度についても、市民税、固定資産税等の増加により、「基準財政収入額」が前年比1.7%増加しましたが、社会福祉費、高齢者保健福祉費の増加により「基準財政需要額」が1.8%の増加となったため、「基準財政需要額」が「基準財政収入額」を上回り、引き続き交付団体となりました。

交付団体になりましたが、財政の健全性は確保されており、市民生活への影響はありません。



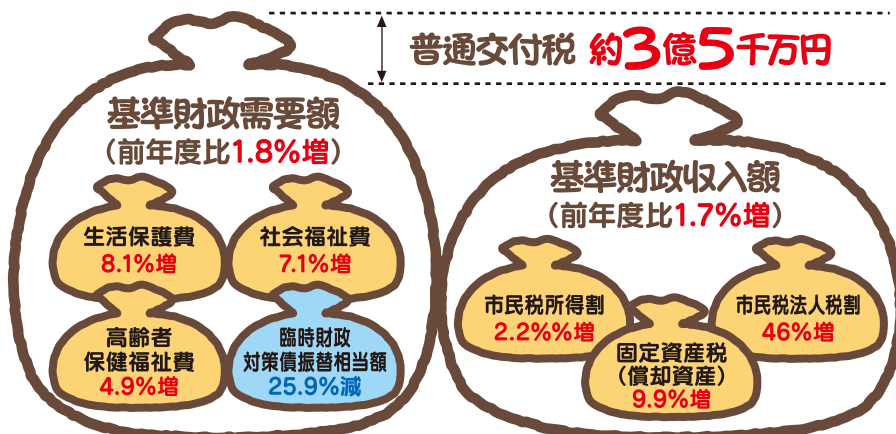
地方交付税の交付額を算式で表すと…

交付額 = **基準財政需要額** - **基準財政収入額** - (**基準財政需要額** × **調整率**) となります。

藤沢市の平成24年度の交付額は…

交付額 = **569億1千万円** - **565億6千万円** - (**569億1千万円** × **0**) = **3億5千万円** となります。

★ 基準財政需要額と基準財政収入額の増減の主なものを見てみると…



生活保護費や社会福祉費、高齢者保健福祉費の増は、単位費用のアップによることが要因です。

また、臨時財政対策債振替相当額の減額は、算定方式の移行措置により臨時財政対策債発行可能額が引き下げ(平成23年度約25億円→平成24年度約19億円に減額)となったことが大きく影響しています。

※臨時財政対策債は、基準財政需要額の一部を振り替えることとされた特例地方債で、臨時財政対策債振替相当額は、普通交付税の算定の際、基準財政需要額から控除されるため、この減額は基準財政需要額の増要素につながります。

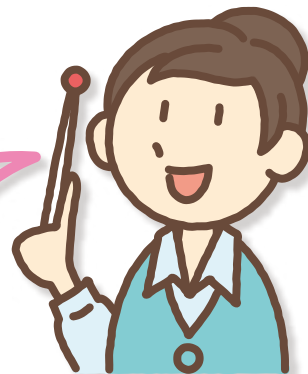
5

藤沢市の借金は どうなっているの？

1 借金はどれくらい？

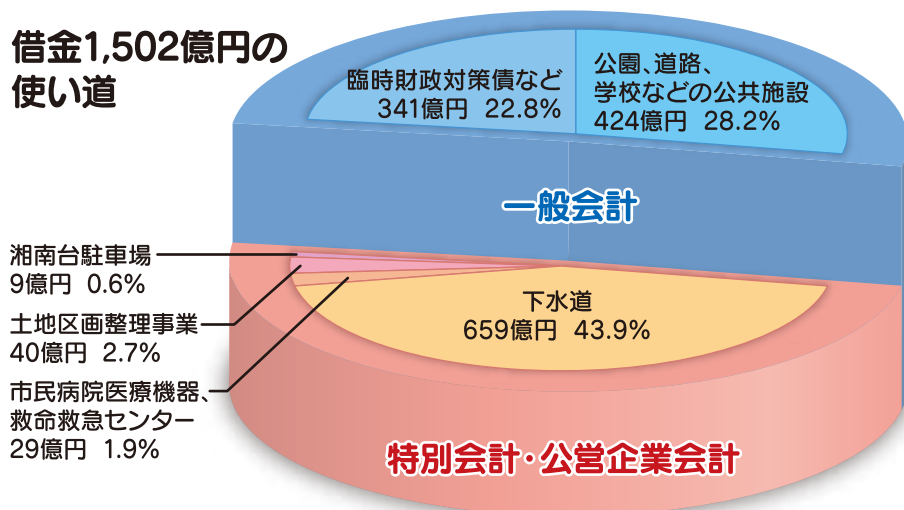
藤沢市の借金は、平成23年度に約83億円を新たに借り入れて、約138億円返済しました。

借金残高は、市全体で約1,502億円です。



- 借金は、主に公園、道路、学校、下水道などの公共施設の整備に使われています。

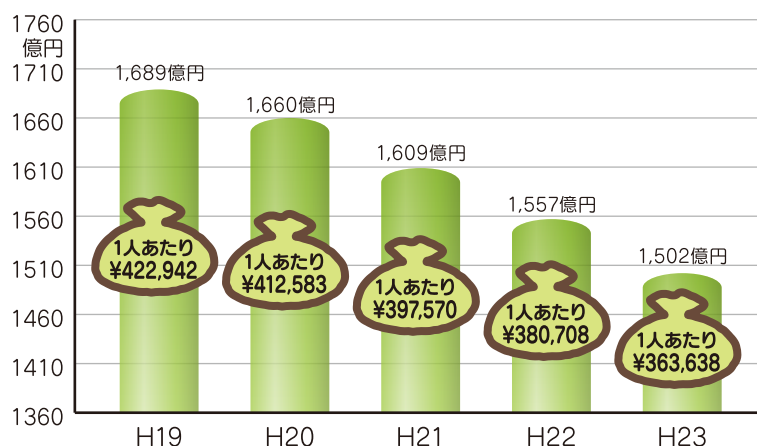
借金1,502億円の 使い道



市民1人あたりにすると
平成23年度中に
新たな借り入れ……約2万円
元金返済……約3万3千円
残高……約36万4千円



●借金残高の推移



大規模な建設事業などが減少していることや、過去に借り入れた借金の返済が進んでいるため、残高は年々減少しています。

★借金は他の市と比べて多いの？ 少ないの？

市民1人あたりを県内16市で比べると、少ない方から4番目です。(普通会計という区分で比較)
(横浜市、川崎市、相模原市を除く県内16市)

藤沢市
約20万円

最高 A市
約58万円

最低 B市
約17万円

16市平均
約25万円

県内少ない方から

4番目

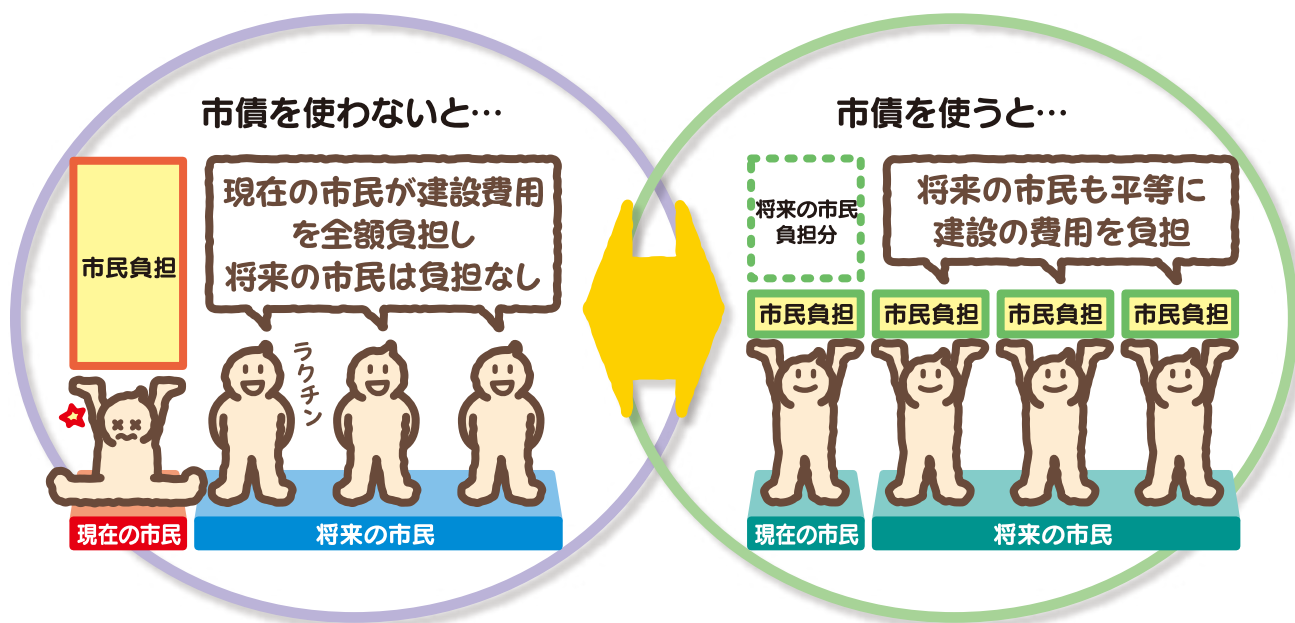


2 どうして借金をするの？

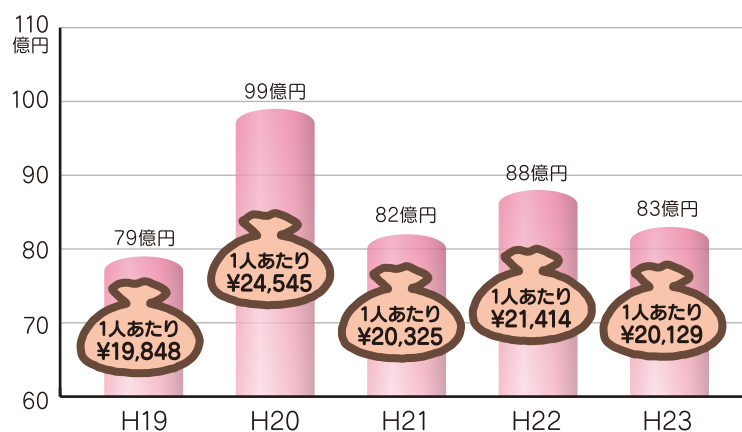
- 「現在の市民と将来の市民の負担を公平にする役割」と「毎年の財源を平均する役割」があります。

公共施設の整備には一時期に多額のお金が必要になります。これをその年の収入だけで賄ってしまうと他の仕事ができなくなってしまう。

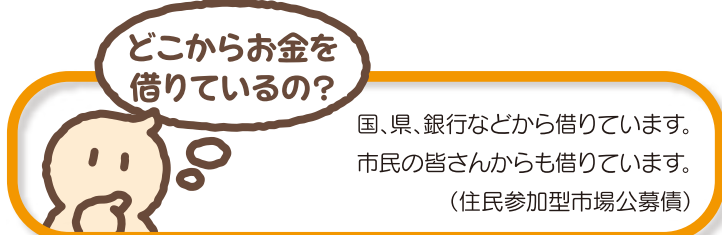
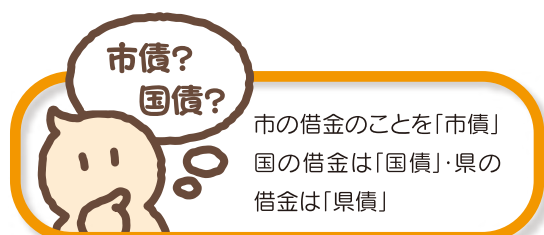
また、公共施設は現在の市民だけではなく、将来の市民も利用するものであるため、負担の公平性を図る観点から、市債を活用して平等に費用の負担をお願いしています。



●借入額の推移



平成20年度に辻堂駅周辺地域都市再生事業や第一中学校改築事業などの実施により借入額が増加しましたが、その後は建設事業の減少により大きな増加はありません。



3 借金の返済額は妥当なの？

●健全化判断比率から見てみよう

借金の返済額が身の丈にあったものかどうかを判断する基準に「実質公債費比率」というものがあります。

収入に対して返済額がどの程度の割合になるのか、借金返済の負担が多すぎないかをチェックするものです。

借金漬けになる可能性が高いとされる目安25%に対して、藤沢市は4.6%（平成23年度決算）で良好な状態にあります。

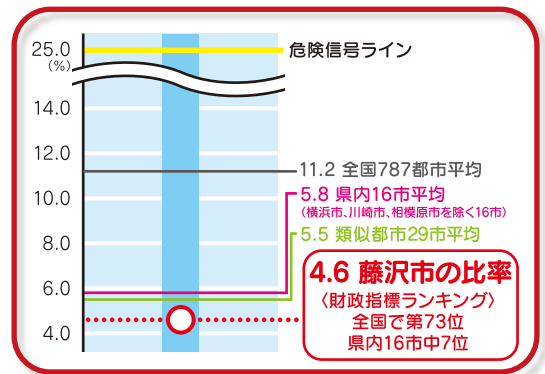


●家計に例えると（実質公債費比率）

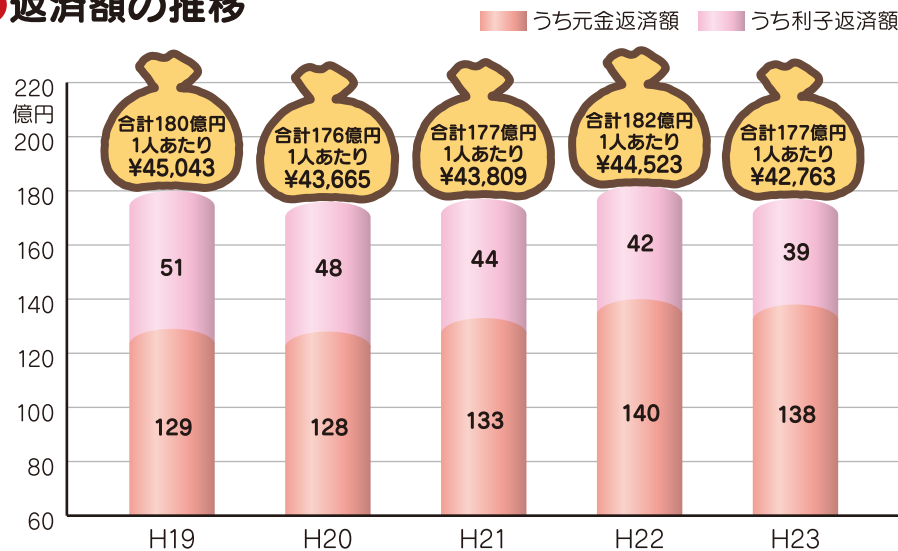
家や車のローン、クレジットカードで買い物をした支払いなど、その年の返済額が年収の25%以上となった場合、借金漬けになる可能性が高いという危険信号を示しています。



●実質公債費比率（他市との比較）



●返済額の推移



返済総額と元金返済額はほぼ横ばいですが、利子返済額は借り入れ利率の低下により減少しています。

★財政の健全度を診断する指標「健全化判断比率」って？

財政破綻を未然に防ぐことを目的に「財政健全化法」という法律ができ、財政の健全度を診断する指標「健全化判断比率」を議会や市民のみなさんに毎年公表することが義務づけられました。

健全化判断比率は、4つの指標①実質赤字比率②連結実質赤字比率③実質公債費比率④将来負担比率があり、赤字や負債（借金返済）の状況など4つの視点から示すものです。

①・②は年間の赤字の割合（①は一般会計等、②は全ての会計を対象）、③は借金の返済額の割合、④は将来の負担が見込まれる負債の割合をチェックするものです。

4 将来の市民に負担はかからないの？

●健全化判断比率から見てみよう

借金や数年間にわたる契約により約束された支払い、職員の退職金など、将来支払わなければならない負債が、収入に対してどの程度なのかを示す指標として、「将来負担比率」というものがあります。負債にかかる負担が大きくないかをチェックするものです。

将来財政を圧迫する可能性が高いとされる目安350%に対して、藤沢市は33.1%（平成23年度決算）で良好な状態にあります。

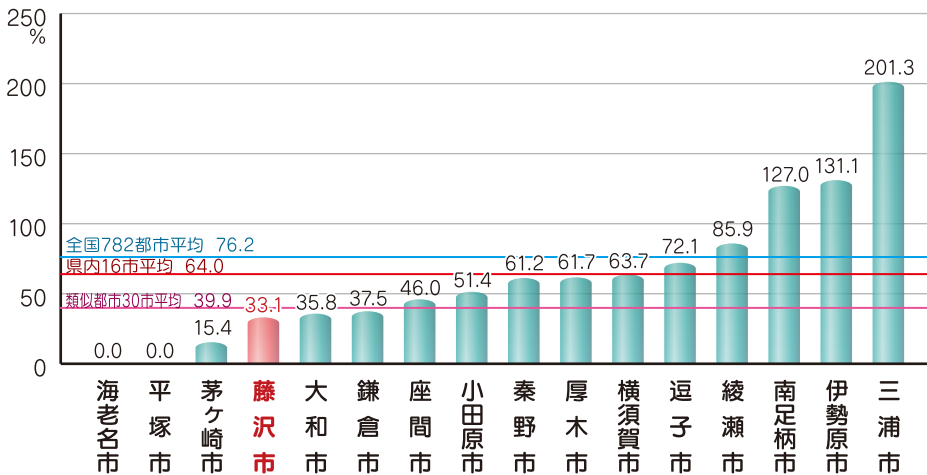


家計に例えると（将来負担比率）

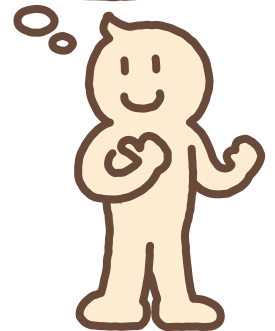
家や車のローンの残高、クレジットカードの支払い残高など、これから返済していかなければならない返済総額が、年収の3.5倍以上になった場合には、今後ローン返済などに追われ家計が成り立たなくなり、経済的苦境におちいる状態にあることを示しています。



●県内16市将来負担比率



県内4番目、
いいんじゃない？



藤沢市の比率は、県内16市中、将来負担が少ないほうから数えて4番目です。類似都市平均、全国平均からみても良好な状態にあるといえます。

(横浜市、川崎市、相模原市を除く県内16市)



健全化判断比率からみた平成23年度の藤沢市の財政状況は、いずれの指標も危険信号を示す基準値を下回っており、「健全段階」であります。

●健全化判断比率

比率	藤沢市		早期健全化基準 (イエローカード)	財政再生基準 (レッドカード)
	H23	H22		
実質赤字比率	▲9.58	▲6.34	11.25	20
連結実質赤字比率	▲23.71	▲19.28	16.25	30
実質公債費比率	4.6	6.3	25	35
将来負担比率	33.1	35.6	350	

※実質赤字比率と連結実質赤字比率については、黒字である場合は負の値(▲)で表示しております。
※財政再生基準の連結実質赤字比率について、H23年度決算では30%、H22年度決算では35%です。

★早期健全化基準・ 財政再生基準とは？

市の財政状況が悪化し、危うくなったときにイエローカード(早期健全化基準)で警告をします。

更に悪化し自主的に財政の立て直しができなくなったときは、レッドカード(財政再生基準)で、国・県の関与のもと、確実な財政の立て直しに着手することになります。

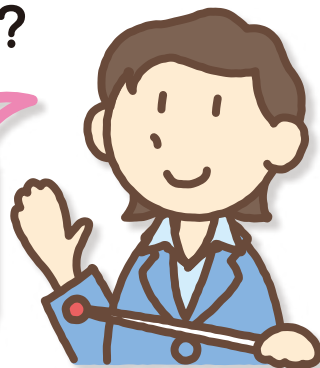


6

藤沢市の貯金はどれくらい? (財政調整基金について)

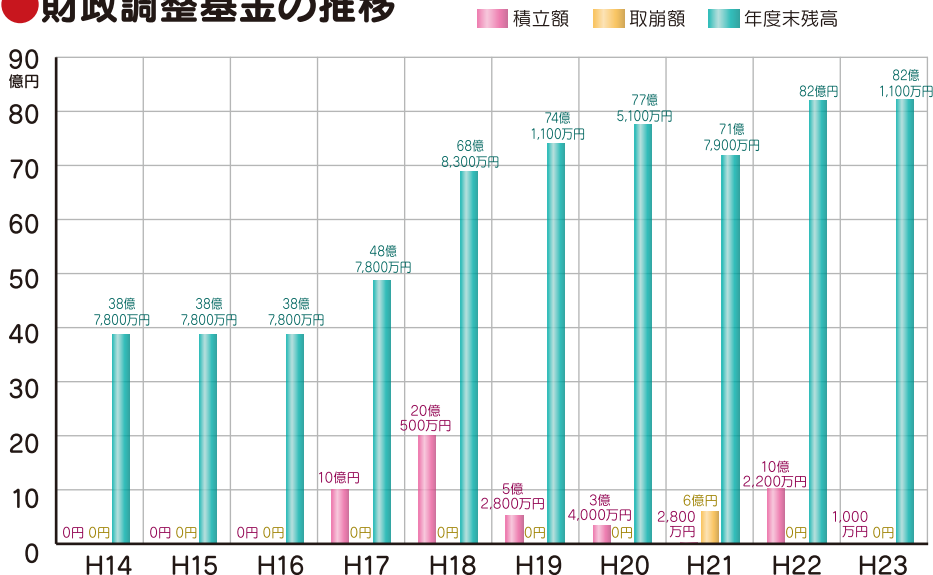
借金のことはわかったけど、貯金はあるの?

藤沢市には貯金に相当する「基金」というものがあります。基金は、それぞれの基金条例に基づき、寄附金や基金運用利子などを積み立てて、基金の目的に応じて必要な時におろして使うものです。藤沢市は財政調整基金をはじめ、みどり基金、環境基金、愛の輪福祉基金など、全部で13の基金を持っていて、平成23年度末の総額で約142億7千万円、市民1人あたり3万4千5百円の貯金があります。



※基金数は平成23年度末現在のものです。

● 財政調整基金の推移



いろいろな基金の中でも、いざという時のためや大きな出費が必要になった時などのために積み立てているのが「財政調整基金」なんだ。「財政調整基金」のここ10年間の推移を見てみよう。



平成21年度には貯金をおろしたということ?



そうです。
平成21年度は、住民参加型市場公募債の償還財源と急激な景気後退等により減少した各種交付金の補てん財源として基金を取り崩しました。



いざという時のためには、貯金があった方が安心だね



そう、そのために今後も経済状況の落ち込みに伴う税収減による財源不足や、地震や台風などの災害への備え、多額の費用を要する大規模事業の備えとして、余裕のある時には財政調整基金に積み立てていくことが必要です。

7

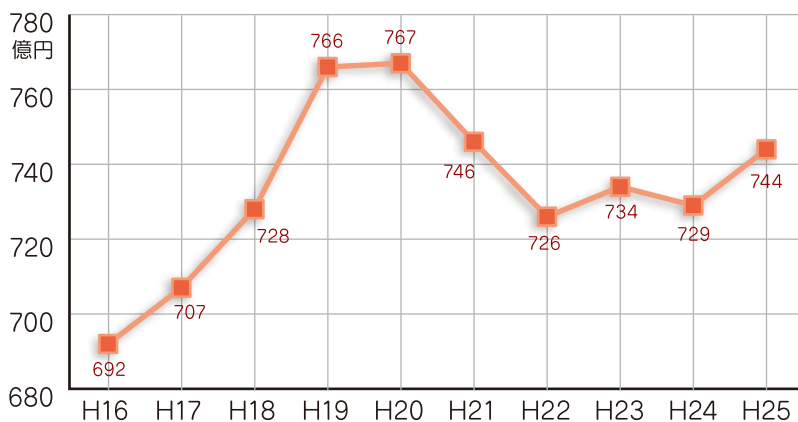
これから先も藤沢市の財政は本当に大丈夫なの？

1 総合的には全国的に見ても健全財政を保っているのはわかったけど、これから先、将来も本当に大丈夫なの？

これからの藤沢市のまちづくりでは、地震や津波に対する防災・減災対策や公共施設の老朽化対策など、数多くの事業を実施する必要があります。これらの事業を実施していくためには多くの財源が必要となりますが、歳入の根幹をなす市税収入は、平成25年度予算では固定資産税の増収などにより増加を見込んでいますが、今後は大きな増加を見込むことが難しく、中長期的には概ね横ばい状態で推移すると予測しており、財源確保がとても大きな課題です。



●市税収入の推移



※H16年度～H23年度は決算額 ※H24年度は最終予算額、H25年度は当初予算額

歳出面でも扶助費の増大により厳しい財政運営が中長期的に見込まれる状況にあります。このため、緊急性の高い施策を優先させるなど、事業の重点化を進める必要があります。さらに、公共施設の老朽化対策や新たな都市基盤整備等の課題事業については、長期的な財政負担も考慮しつつ、最も経済的・効果的な整備手法を用いるなど、厳しい財政状況に対応したしっかりとした財政運営を行っていく必要があります。

2 市役所の庁舎を建て替えるみたいだけど、どういう計画なの？ どのくらいのお金がかかるの？

市庁舎の本館、東館がそれぞれ築60年、50年を経過し、耐震性の問題により使用できなくなっていることから、平成28年度までに庁舎の建て替えを行うこととなっています。計画では、平成25年度から26年度に工事の設計及び本館・東館・第2庁舎等の解体を行い、平成27年度から28年度の2カ年で新庁舎建設を実施します。また、平成29年度には第1庁舎および職員会館の解体、外構の整備等を合わせて実施する予定です。建設する新庁舎の規模は、地上8～10階建て、延べ床面積約28,000㎡で、庁舎建て替えにかかるコストについては、総額で約120億円と想定しています。その財源を確保するため、庁舎整備基金への積み立てや市債の発行を行っていく予定です。



8

財務諸表でわかる 藤沢市の財政状況

1 藤沢市にはどのくらいの資産があるのだろうか？

貸借対照表を見れば、藤沢市の資産、負債、純資産が一目でわかります。
資産、負債、純資産の割合を円グラフで表すと次のようになります。



●平成23年度 藤沢市 普通会計 貸借対照表における資産・負債・純資産の割合



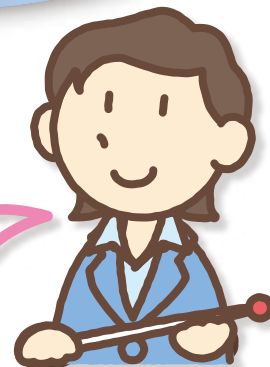
今まで積み立ててくれた市民の人たちのためにも大切にしなければネ

藤沢市の資産は、これまでの世代の負担(純資産)によって築かれたものが大部分を占めていることがわかります。

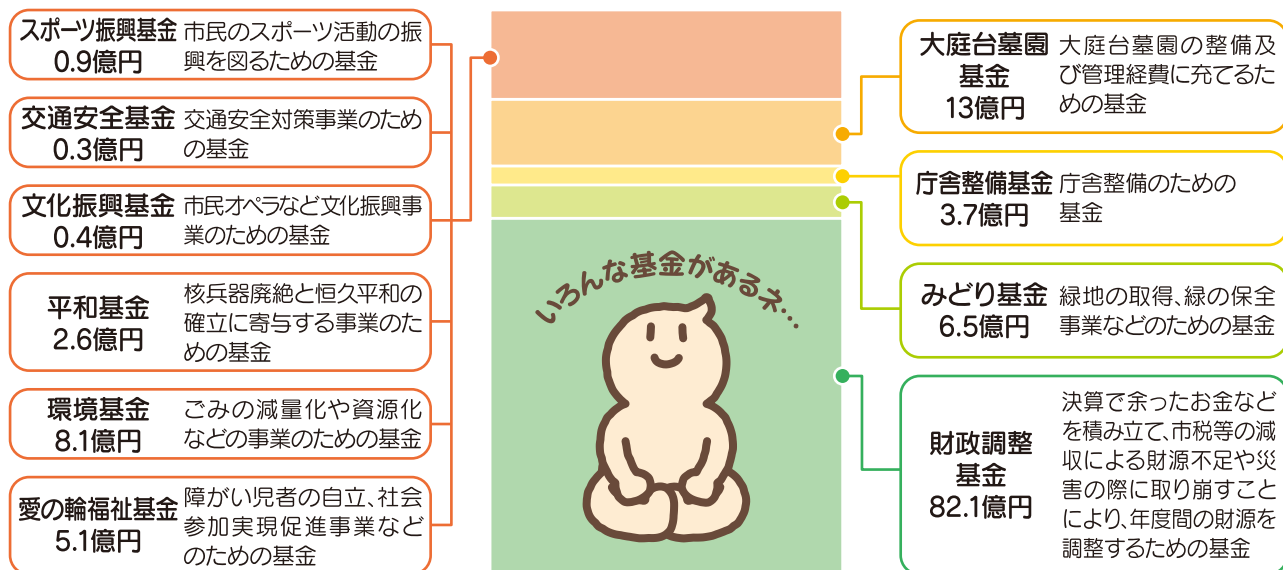
将来世代の負担となる負債は、資産に対して8.1%となっています。

資産の中には、これまで積み立ててきた市の貯金ともいえる基金があります。

基金には寄附金や基金運用利子などを積み立て、それぞれの基金の目的に応じた事業に使います。



●平成23年度 藤沢市 普通会計 基金残高

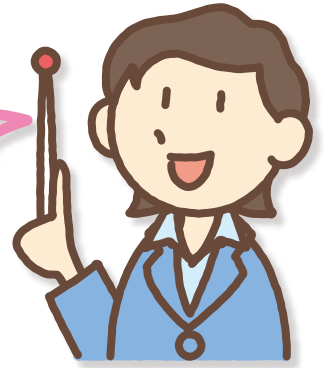


いろんな基金があるネ...



市が持っているすべての資産や負債などのストック(財貨の貯蔵量)の状況を表したものが貸借対照表です。

貸借対照表の左側(借方)には資産が、右側(貸方)の上部には資産の取得のために借り入れた借金などの負債が、右側(貸方)の下部には、借金以外の資産取得の財源である純資産がそれぞれ表示されます。



資産 = 負債 + 純資産

●平成23年度 藤沢市 普通会計貸借対照表 (平成24年3月31日現在)

	借方	貸方	
土地、建物、構築物、備品など	[資産の部]	[負債の部]	借り入れた市債のうち翌々年度以降の償還予定額
有形固定資産のうち未利用資産で売却が可能なもの	1.公共資産 1兆4,438.5億円	1.固定負債 1,072.7億円	全職員が年度末に自己都合退職したと想定した場合の退職手当額最大どれくらいの額が必要か見るためのもの
下水道などの企業会計や市出資団体などに対する出資金	(1)有形固定資産 1兆4,425.5億円	(1)地方債 719.6億円	借り入れた市債のうち翌年度の償還予定額
みどり基金など特定目的基金の残高	(2)売却可能資産 13億円	(2)長期未払金 159.3億円	翌年度支払予定額のうち23年度分を準備費用として積み立てるもの
市税等の収入未済額のうち22年度以前に発生した分のうちの未収額	2.投資等 485.3億円	(3)退職手当引当金 193.8億円	これまでに資産や投資の取得財源として充てた額の累計
転居先不明等の理由で市税等の回収が困難であると見込まれる額	(1)投資及び出資金 423.6億円	(4)損失補償等引当金 -	市債のうち赤字債は資産の形成を伴わず、償還には今後の税収などを充てるため、この分は将来の一般財源が拘束されている。
財政調整基金 + 歳計現金	(2)貸付金 0.2億円	2.流動負債 150.6億円	資産を時価評価したことにより、取得時よりも資産価値が上がっていることを表している。
市税等の収入未済額のうち23年度に発生した分のうちの未収額	(3)基金等 40.6億円	(1)翌年度償還予定地方債 85.4億円	
	(4)長期延滞債権 28.7億円	(2)短期借入金 -	
	(5)回収不能見込額 △7.8億円	(3)未払金 38.4億円	
	3.流動資産 164.2億円	(4)翌年度支払予定退職手当 13.4億円	
	(1)現金預金 155億円	(5)賞与引当金 13.4億円	
	(2)未収金 9.2億円	負債合計 1,223.3億円	
	資産合計 1兆5,088億円	[純資産の部]	
		1.公共資産等整備国県補助金等 844億円	
		2.公共資産等整備一般財源等 5,526.6億円	
		3.その他一般財源等 △394.6億円	
		4.資産評価差額 7,888.7億円	
		純資産合計 1兆3,864.7億円	
		負債・純資産合計 1兆5,088億円	

△表示はマイナスを表します。

●市民1人あたりの貸借対照表の値を見てみると

平成24年3月31日現在
藤沢市人口413,064人

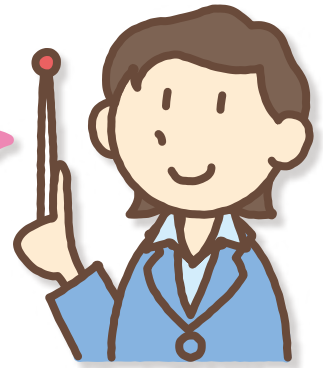
市民1人あたりの有形固定資産
349万2千円

市民1人あたりの負債
29万6千円

2 純資産ってなんだろう？

純資産は、貸借対照表の右側(貸方)の下部に表示され、その左側(借方)の資産を取得する際の財源を表し、負債以外の財源を表しています。

純資産額が前年度末(期首)に比べ、どのように変動したかを示したものが純資産変動計算書です。



●平成23年度 藤沢市 普通会計純資産変動計算書

〔自平成23年4月1日〕
〔至平成24年3月31日〕

	純資産合計	公共資産等 整備 国県補助金等	公共資産等 整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	1兆4,373.1億円	837.5億円	5,503.3億円	△417.5億円	8,449.8億円
純経常行政コスト	△1,047.9億円			△1,047.9億円	
一般財源					
地方税	732.6億円			732.6億円	
地方交付税	4.6億円			4.6億円	
その他行政コスト充当財源	91.1億円			91.1億円	
補助金等受入	268.9億円	30.4億円		238.5億円	
臨時損益					
災害復旧事業費					
公共資産除売却損益	3.3億円			3.3億円	
投資損失					
損失補償等引当金繰入等					
科目振替※					
公共資産整備への財源投入			65.1億円	△65.1億円	
公共資産処分による財源増			△4.1億円	4.1億円	
貸付金・出資金等への財源投入			40.8億円	△40.8億円	
貸付金・出資金等の回収等による財源増			△47.3億円	47.3億円	
減価償却による財源増		△23.9億円	△110.1億円	134.0億円	
地方債償還に伴う財源振替			78.9億円	△78.9億円	
資産評価替えによる変動額	△564.2億円				△564.2億円
無償受贈資産受入	3.1億円				3.1億円
その他					
期末純資産残高	1兆3,864.6億円	844.0億円	5,526.6億円	△394.7億円	7,888.7億円

行政コスト計算書の(差引)純経常行政コストの額と一致

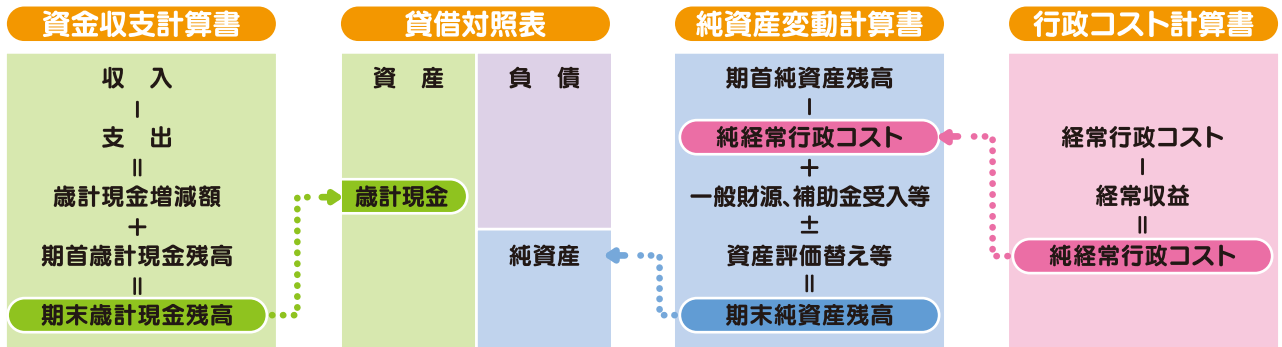
扶助費などに充てた国県補助金

資産を時価評価した結果、取得時よりも資産価値が増減することにより、その分純資産額も増減する。

※科目振替とは、公共資産等整備と一般財源の間でそれぞれに充てた財源の原因別の変動を示しています。

「地方債償還に伴う財源振替」は、公共資産等整備のための市債の返済を一般財源でおこなったため、「公共資産等整備一般財源等」へ振替えるものです。

●財務諸表4表の関連



財務諸表の4表には、次のような相互関係があります。

貸借対照表の純資産は純資産変動計算書の期末残高と一致し、貸借対照表の歳計現金は資金収支計算書の期末残高と一致し、行政コスト計算書の純経常行政コストは純資産変動計算書のそれとそれぞれ一致します。

★資産老朽化比率

土地を除く有形固定資産合計額に対する減価償却累計額の割合を算出することにより、その資産が平均どの程度の年数が経過しているのかを表しています。

以下の5市の中では、藤沢市の施設が最も老朽化が進んでいることがわかります。

藤沢市	茅ヶ崎市	鎌倉市	秦野市	町田市
49.5%	47.8%	48.4%	46.3%	47.1%



★受益者負担比率

経常収益は市民のみなさんが支払う使用料や手数料などの受益者負担金の総額です。行政コストに対する割合を算出することにより、受益者負担の割合を表しています。

経常収益では経常行政コストの4.4%しかまかなえていないことがわかります。

しかし、藤沢市ではごみの有料指定袋制などが導入されていることなどから、他市に比べて比率が高くなっています。

藤沢市	茅ヶ崎市	鎌倉市	秦野市	町田市
4.4%	3.1%	3.4%	3.1%	3.2%



★市の決算と財務書類のちがいは



現在、市の決算は現金ベースです。お金が入ってきて収入となり、お金が出ていって支出となります。

入ってきたお金を支出に充てるため、収入と支出は同じ額となります。

貸借対照表では、土地や建物などの資産がどのくらいあるか、債権がいくらあってそのうち現金化されたものがどのくらいあるか、借金が全体でどのくらいあって、いくら残っているかなど、財務諸表では全体の財政状況がわかるようになります。

全体の債権額と実際に現金化された額(収入済額)との差額は、貸借対照表では未収金となり、その後現金が入ることによって未収金が減っていくことになります。

2 藤沢市の行政サービスにはどのくらいのコストがかかっているのだろう？



ごみの収集や福祉サービスの提供など資産の形成に結びつかない行政サービスにどれだけ費用(コスト)がかかり、それをどのような収入でまかなったかを表すものが行政コスト計算書です。

●平成23年度 藤沢市 普通会計行政コスト計算書

〔自平成23年4月1日〕
〔至平成24年3月31日〕

【経常行政コスト】

		総額	構成比率
貸借対照表に計上した退職給与引当金の前年度からの増減額に23年度の退職手当を加算したもの	(1)人件費	222.3億円	20.3%
	(2)退職手当引当金繰入等	19.5億円	1.8%
	(3)賞与引当金繰入額	13.4億円	1.2%
	小計	255.2億円	23.3%
市の施設等を老朽化などにより補修する経費 扶助費などの経費	(1)物件費	166.4億円	15.2%
	(2)維持補修費	9.8億円	0.9%
	(3)減価償却費	134億円	12.2%
小計	310.2億円	28.3%	
個人や団体等の活動に対して交付する補助金など 市債の支払利息	(1)社会保障給付	305.7億円	27.9%
	(2)補助金等	42.3億円	3.8%
	(3)他会計等への支出額	153億円	14.0%
	(4)他団体への公共資産整備補助金等	17.1億円	1.6%
小計	518.1億円	47.3%	
貸借対照表に計上した回収不能見込額の前年度からの増減額に23年度の不納欠損額を加算したもの	(1)支払利息	14.2億円	1.2%
	(2)回収不能見込計上額	△1.5億円	△0.1%
	(3)その他行政コスト	0	0.0%
小計	12.7億円	1.1%	
経常行政コスト a		1,096.2億円	

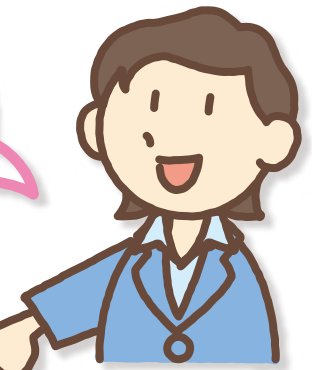
【経常収益】

使用料・手数料 b	38.3億円
分担金・負担金・寄附金 c	10億円
経常収益合計 (b + c) d	48.3億円
d / a	4.4%
(差引)純経常行政コスト a-d	1,047.9億円

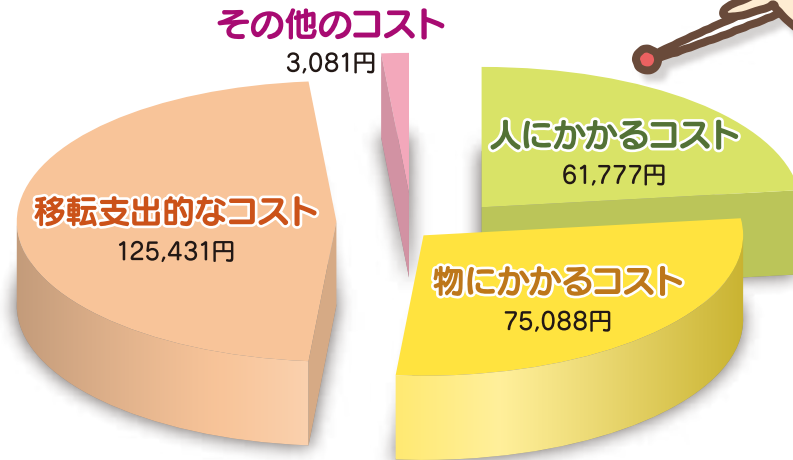


差引の「純経常行政コスト」は、市税などの一般財源や国県からの補助金などでまかっています。

さて、市民1人あたりの行政コストはどのくらいかかっているでしょうか。
下のグラフを見てください。



●平成23年度 藤沢市 普通会計 行政コスト計算書 における市民1人あたりの経常行政コスト



市民1人あたりの
経常行政コスト
合計 265,376円

3 市の財産のうち現金の動きを見てみよう

貸借対照表の左側(借方)、資産の部に計上されている現金をその支出の性質から3つにわけて、現金の変動を表すものが、資金収支計算書です。

資金収支計算書は、引当金や減価償却費などの現金でない支出を含まないことから、ほかの財務書類とちがい、現金のみの表示となっています。市の決算書に一番近い財務書類といえます。



●平成23年度 藤沢市 普通会計 資金収支計算書

〔自 平成23年4月 1日
至 平成24年3月31日〕

1. 経常的収支の部	
支出合計	908.6億円
収入合計	1,136.1億円
経常的収支額	227.5億円

2. 公共資産整備収支の部	
支出合計	144.1億円
収入合計	83.0億円
経常的収支額	△61.1億円

3. 投資・財務的収支の部	
支出合計	178.1億円
収入合計	33.5億円
投資・財務的収支額	△144.6億円

翌年度繰上充用金増減額	-
当年度歳計現金増減額	21.8億円
期首歳計現金残高	51.1億円
期末歳計現金残高	72.9億円

期末は年度末をさし、それに対して年度初めのことを期首といいます。



公共資産整備収支と投資・財務的収支は赤字となっており、その赤字分を経常的収支の黒字分で補っていることがわかります。

ホームページで「藤沢市の借金時計」
をご覧ください

❓「借金時計」って一体どんな時計？ 借金で買った時計なの？

自治体の借金残高が1秒単位にどう変わっていくのかをデジタル時計のように表示したものを「借金時計」といいます。

インターネットでは、「日本の借金時計」や「全国都道府県の借金時計」などを見ることができますが、全国の市町村では、この借金時計を公開している自治体はまだ少ない状況です。



藤沢市のホームページにて公開していますので、
みなさん是非一度ご覧ください！

藤沢市の市債(借金)の残高は

2013年 3月 1日 12時 56分 17秒 現在

1457億 6577万 3998円 77銭 です。

2種類の表示ができます。表示したい項目の○をクリックして選択してください。

- 一般会計
- 全会計＝一般会計＋特別会計＋企業会計

家計の収支にたとえると

- 一般会計・生活費に使うお金
- 特別会計・教育資金など区別して使うお金
- 企業会計・生活費と切り離している商売のお金

一時間あたり 約 55万 2997円 減っていきます。

一秒あたり 約 154円 減っていきます。

借金時計のこまかい内訳は[こちら](#)

※参考：[年度別市債借入・償還及び残高の状況（一般会計）](#)

アクセスは、藤沢市ホームページ>各課のご案内>財政課>「借金時計」の公開

URLは<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/zaisei/page100095.shtml>

または「藤沢市の借金時計」をキーワードにして検索するとご覧になれます。

※各ページの表中の数値について、その積み上げと合計が一致しないところがあります。

わかりやすい 藤沢市の財政2013

平成25年度予算と平成23年度決算のデータ使用により作成
2013年3月 発行

発行／藤沢市財務部財政課

〒251-8601 藤沢市朝日町1-1

電話 0466-25-1111(代表) 内線2302

FAX 0466-50-8405

E-mail zaisei@city.fujisawa.kanagawa.jp

再生紙を使用しています

ふじさわの
財政のこと、もっと
理解しなきゃ…

